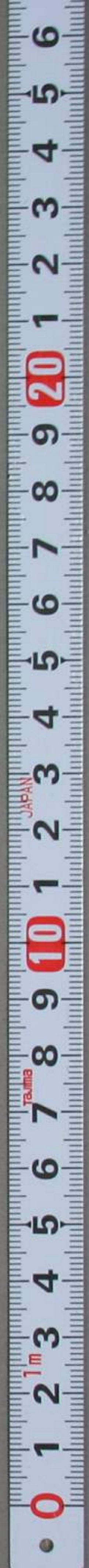


遠
都
居
所
圖
会
三

ル 4
5325
4



拾遺都名所圖會卷之三目錄

後玄氏

加茂窪寺くもくぼにとらまうの梅

本列坂

妙見社

圓通寺えんつうに 觀音堂

神明宮

靜原

足洒石

大悲山だいひざん 補遺

花瀬峠

牛若丸宅うしわか丸のたくら 地

役行者坐禪石

花園

龜山

炭燒すみ 鞍馬の奥の國

立田祠

茶王坂

螢石

乳巖

車坂

惟喬般若

棧敷嶽

小野橋

西来寺さいらいに 五百羅漢像

大豆塚

幡枝八幡宮

福惜昆山門

小野皇后御趾

歸一法眼塚

岩中柱落

滿樹峠

唯喬祠

小野笠社

櫻井

辨天社

升塚

栗核辨天

巷过

梶取社

龍王籠

溪川竹伐流

雲畑

岩屋山いわたん 真院 飛龍池

為茶宮

分類 33
番号 1515
通番

<49-1955>

御栗栖野
 二子塚
 小野道風社
 大皇陵
 石不動
 六請明神
 大内山
 宅磨塚
 北野清藤所
 堀地彦
 氷室社
 婦夫石
 大宮
 惟喬社
 光天石
 十禪師社
 光孝大皇陵
 清瀧河
 白樂天社
 極樂格
 惟喬王社 同塔
 湊天祠
 小野篁墳
 若宮八幡
 淨藏貴所塔
 濟信法親王塔
 車塚
 淨室花見
 橘次宅
 安居
 山森
 若緑松 淨所田
 紫式部墳
 頼光墳
 不動石
 宇多野
 福王神
 地藏院
 花園
 龍翔寺旧趾

右白虎目錄

常盤源光庵
 水尾陵 水尾寺
 定家卿塚
 辨財天六祠
 堀抜川
 鼎淑孺人墓
 臨川寺
 大堰川 漢釣鉢
 西行櫻
 最福寺
 長福寺
 西院
 細谷直指庵
 福田寺
 生六道
 化野念佛寺
 療病院
 落柿舎
 峯峨野
 後峯院院陵
 大悲閣 了以碑銘
 峯堂 谷堂
 梅津尤衛門塔
 春日社
 北峯峨大覺寺
 後龜山院陵
 中院觀音
 五所明神
 三帝御塔
 下峯車折社
 兼明親王亭
 龜山院塔
 野依
 真如寺
 山之内
 任吉社
 水尾清和太皇太后
 仙翁寺
 西行庵
 菖蒲谷
 圓光大師廟塔
 鹿王院
 龜尾瀧
 法論寺 細圖
 別雷峯
 神代三陵
 徳成寺
 高山寺

秀傳庵
 大文臺
 福源院
 藤原兼房之莊
 御靈社
 觀音堂
 長法寺
 丹屋谷 行道石
 院墓 佛谷
 業平遺蹟
 長岡大満宮 補遺
 宿院成就院 總持
 神降山

宗圓寺
 御所内
 津寺
 老坂比藏
 保古羅明神
 大原野
 楊谷觀音
 淳和帝陵
 廣谷
 三尊寺
 成恩寺

寶藏院
 勝定院
 三宮
 久世捨
 子敦盛跡
 善惠上人塔
 浄土谷
 長岡舊都
 向町 典降る 真經る
 神足社
 神宮寺

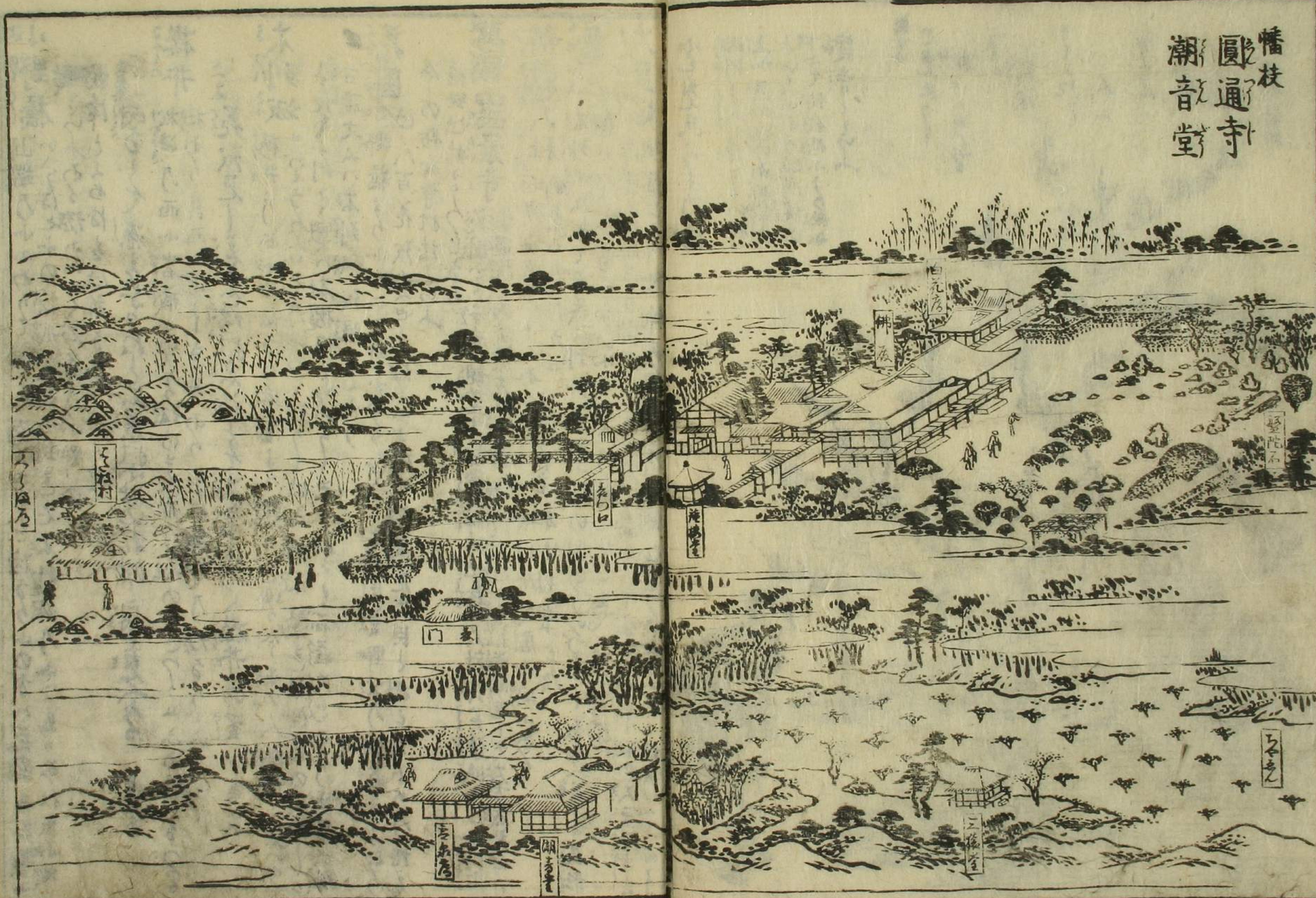
野宮 同清水
 幸林房墳
 桂里
 伊勢宅
 蓮生寺
 物集女永正寺
 衆願寺
 皇居旧趾
 開田 法善檀林
 勝龍寺
 袖摺松



坐免六の梅
 西竹上人の梅
 上加茂の梅の南西念ふ
 とつふふりひ所堤の
 下老地梅はふよりふ
 窪寺

新古今
 坐免まう
 梅さうらふ
 宿坂
 人
 ろふ
 ろを
 ん
 西行法師

幡枝
圓通寺
潮音堂



小野橋 山端乃小ありて巽より麓につくと橋あり小の方へ花園長谷等

松あり其西ふかしき井ありこれ松井乃流るりといふ

花散りてを流るれ名流とて本葉をつく松井の里 為家

本列坂 松井乃西山の坂あり後陽より群小見ゆる人狐坂といふ

古證文又の松列坂坂限あり

花園 小野橋より小十二三町ありむり花園を大臣と樹とてなり

今乃の妙公寺に地といふ

萬歳山西末寺 花園の西に尊觀世音の智證大師の地九尺計初は榮成りて今乃府

辨財天社 新小乃山トあり 妙見社 地所民居の向あり

龜山 本列坂を越て石蔵に到は東西ふ二つの園ありつとともあり長し野鹿

大豆塚 妙見社 地所民居の向あり

大悲山圓通寺 樹塚 大豆塚の西二町あり

坐像三人計 大悲圓通の額を後水尾院に震翰あり

朝音堂乃本尊の准胝觀音 坐像の又西園世之所に觀音と安重尼

は地とて先の園光院文英尼公の宅地と則尼公の園を大尼基任公

乃女あり寺となすと妙心寺龍泉の祖實性禪師と岡山

るに 後水尾院在位の清時清祈願所とあり後分は清震翰

津衣等お賜る寺鎮とるんたり同帝行幸の清茶亭あり

三猿堂靈泉庵の門前のある丘ありて園光院塔を本堂

乃むりふあり 延寶八年十一月十一日 都ては地の底造小堀遠別

れ好みて東の方より比叡山を庵中へ持来系真妙ありて盤

陀石といふ名石あり又白華庵の佛殿の小ふあり何の松花散り

わけてまのいふなりて寂寥する花の蔭ふ都下の騷人群つて春を

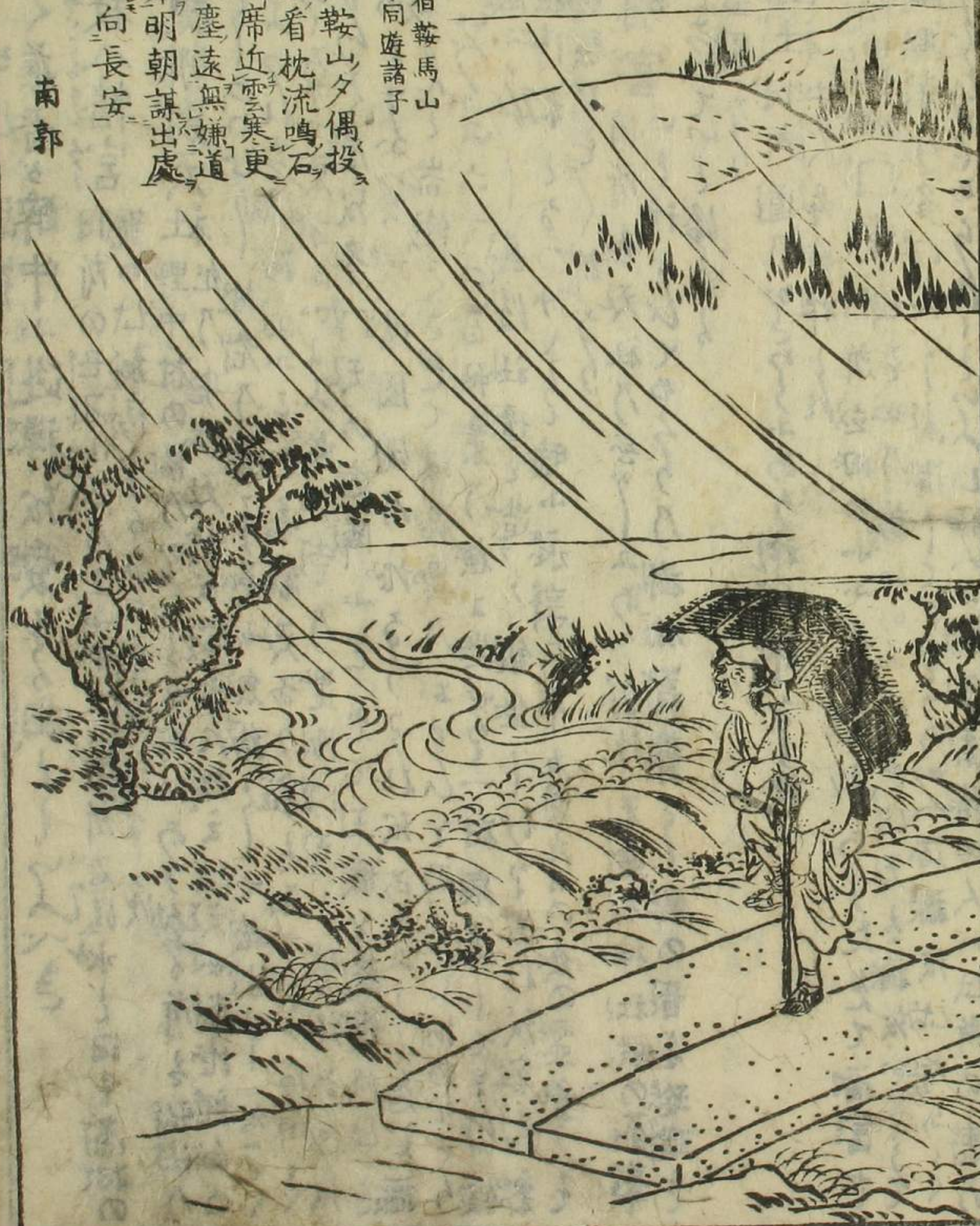
炭竈里



宿鞍馬山
示同遊諸子

澗戶鞍山夕偶投
丘壑看枕流鳴石
急臥席近雲寒更
問風塵遠無嫌道
路難明朝謀出處
不必向長安

南郭



く獲晋が醉中ハ遊禪杖愛する相としてしるべき

幡枝八幡宮

所の世に幡枝八幡宮なる所ありて水と同一處の

粟穂辨財天社

野中村の辨財天社ありて天女を祀りて辨財の

りて居るが如く天女を祀りて辨財の社ありて

ありて居るが如く天女を祀りて辨財の社ありて

ありて居るが如く天女を祀りて辨財の社ありて

ありて居るが如く天女を祀りて辨財の社ありて

神明宮

日所祀天社乃云々ありて辨財の社ありて

ありて居るが如く天女を祀りて辨財の社ありて

立田社

土人卷乃神ありて辨財の社ありて

福惜毘沙門堂

所立田の毘沙門堂ありて辨財の社ありて

ありて居るが如く天女を祀りて辨財の社ありて

ありて居るが如く天女を祀りて辨財の社ありて

巷辻

毘沙門堂ありて辨財の社ありて

静原

南にありて辨財の社ありて

ありて居るが如く天女を祀りて辨財の社ありて

薬王坂

北にありて辨財の社ありて

ありて居るが如く天女を祀りて辨財の社ありて

ありて居るが如く天女を祀りて辨財の社ありて

小野皇太后宮乃舊跡

人考ありて辨財の社ありて

ありて居るが如く天女を祀りて辨財の社ありて

ありて居るが如く天女を祀りて辨財の社ありて

ありて居るが如く天女を祀りて辨財の社ありて

ありて居るが如く天女を祀りて辨財の社ありて

ありて居るが如く天女を祀りて辨財の社ありて

ありて居るが如く天女を祀りて辨財の社ありて

ありて居るが如く天女を祀りて辨財の社ありて

ありて居るが如く天女を祀りて辨財の社ありて

白河院源雪乃のいと書見の行幸あるなりとて
人少くめりて幸平のきこえし程やがて出清をそ面白
雪の那何うこへむらへた小野の宮右宿のりえむらやと
られけり清隨身ありて従者と馬にのせて被えへてせま
くゆけ幸平ゆるとして清車をりては清用意いへしと
まねをわきまぬ又具ありけり清せらるふふのとき
おるんまをこれらきりて清らんまも何い
と中人まをいば宮右宿又書見の人の内えつる幸平と
たるみきりたるてなんたう海々ほ座りて清幸ありて
清車やをて入てて清のまはしをそとへし
えたねおんともちまうし多朽葉れとみきりて二人一人を
洗乃おねお玉のりら死恨めさしに合れ立花一ふさ
とてねおとくりきり一人を序口乃純子小酒張りし
おと二人乃考寢殿のまんとてこれねおりあふさり
とてらて清車へ参りけるさぬみしを優おんまを酒を
うはりしなをさへある橋を季通清供おんゆりふ
りせたり上をうらをゆりしきりてにねりくるり
き世まくりたりゆきれを店一所はつり芳られり
たれと只今清幸あるりしはげまをせらるる清
身おさんあけりひは巻十四

梶取社
足酒石
螢石
帰一法眼塚
龍王龍

二階乃小のり本船の一鳥居のり
梶取の社の上の神のありて
右の石の西の腕のありて
本船のり下船乃お玉のり
梶取社乃小半町こり東の方あり
龍王龍社乃小一町こり
和泉式部



大悲山

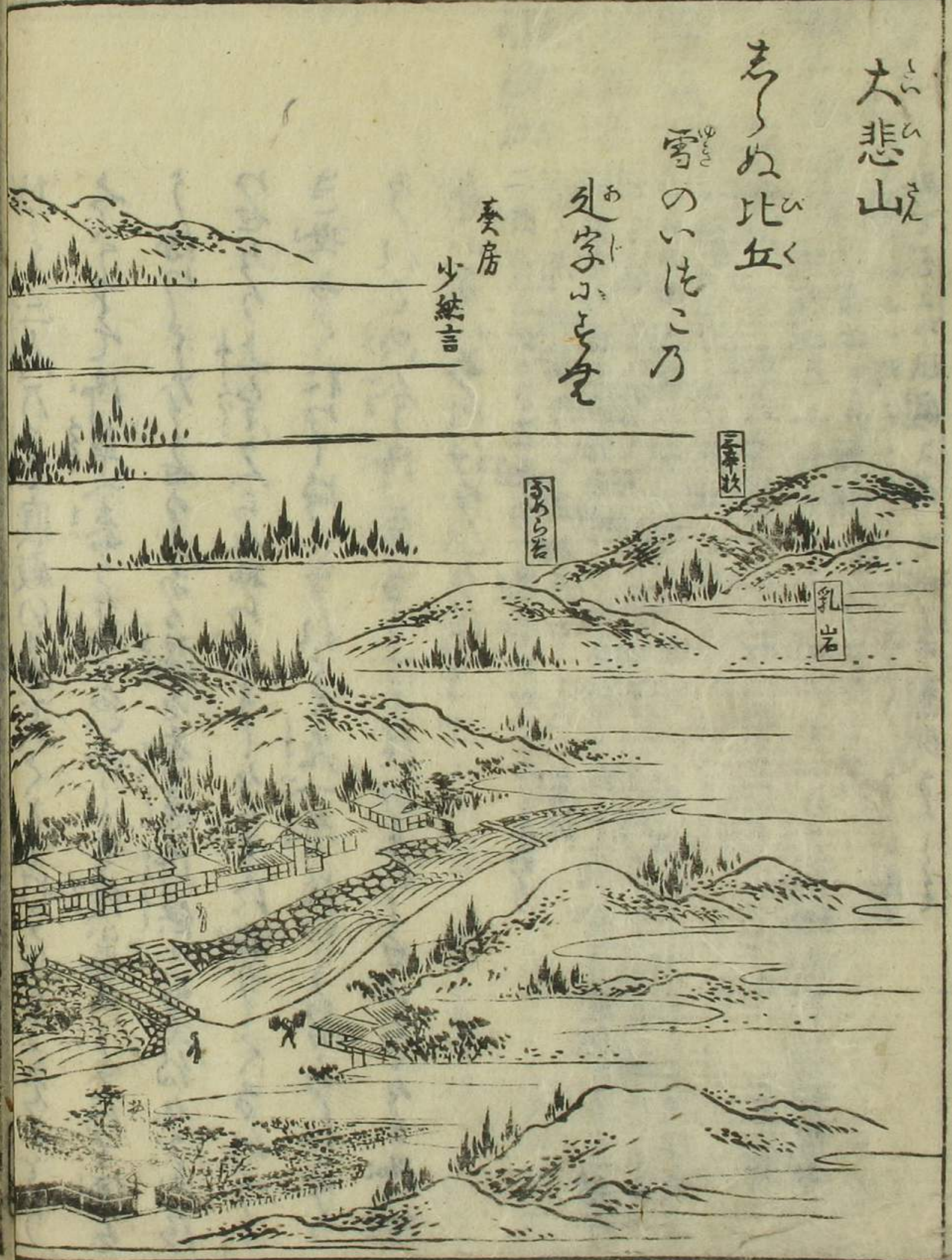
あつぬ比丘

雪のいほころ

処字ふとを

妻房

少純言



大悲山峯定寺

當山の險陽乃山の方より行程十里鞍馬寺より

二邑あり大布施といふを宗旨と天台より聖護院に属し樓門を

南向りて金剛力士坂安んず余まより本堂の登は年十町あ

まを巖石嶮々として歩くく左右を老杉林として暗く

其中間に鑿堂ありと儼乃石上より復寛僧都に石塔婆あり又其

上の方小役行者堂あり又其上六所明神社

藏王八幡大菩薩加茂下上貫布祓大明神地主鏡智童子あり本堂を

當山乃護法神と建之の下の保之之年丙子二月朔日あり

南向りて巖上小建鑿堂ありて若はくは

音唐乃不空三藏の佛舍利觀世音胎心白山権現

開基の觀空上人建之平相國清盛

押當ふの縁起い少納言信西入道の撰りて文深祭然るる長章

ゆ人其大意採和解してあり又記に

夫一代の教を法流後中人者窟窟ふあめり園案とのぐ之世堂再入

生寂柳しり之清涼ふして化道と弘く大聖世尊猶靈地と

行人争り勝境と捨ん佛子の求願とる所のもの元上正等れ乃遊歴

とる所のもの名ふ大岳れ境之偏小跋歩と奉とすう耐いさ嘗て寧

居るに鳳凰城乃地れがら鞍馬寺の乾の方小靈地を山脚より山頂

小至て佳々小奇峯あり連々して相接松栢鬱茂して昇峰崎嶇るる

佛子地み至り戀々として去奉あつらぬ包芽蒸とむもて極息とる

奉尚し其心の躡光尋往詣乃便あめく止宿止所定て宛驛亭に量

程を母垂がゆいけ外九品乃峰を蓋安養界小擬に

才二板之盤手向と号け才三の盤小屋居とる向くは嶺乃西小崇峯あり

次一の嵩嶺あり善覺山といふ中品上生小象はるり才四板阿弥陀山と号け

峰あり明覺山といふ中品中生小象はるり才五板眼覺峰と号け

次小崇岳あり離苦峰と号け上品下生小象はるり才六板無原と号け

上品上生小象はるり才七板水飲と号け次小奇峰あり真色峰と号け

上品上生小象はるり才八板平池と号け其次の嶺

才八板平池と号け其次の嶺

才八板平池と号け其次の嶺

才八板平池と号け其次の嶺



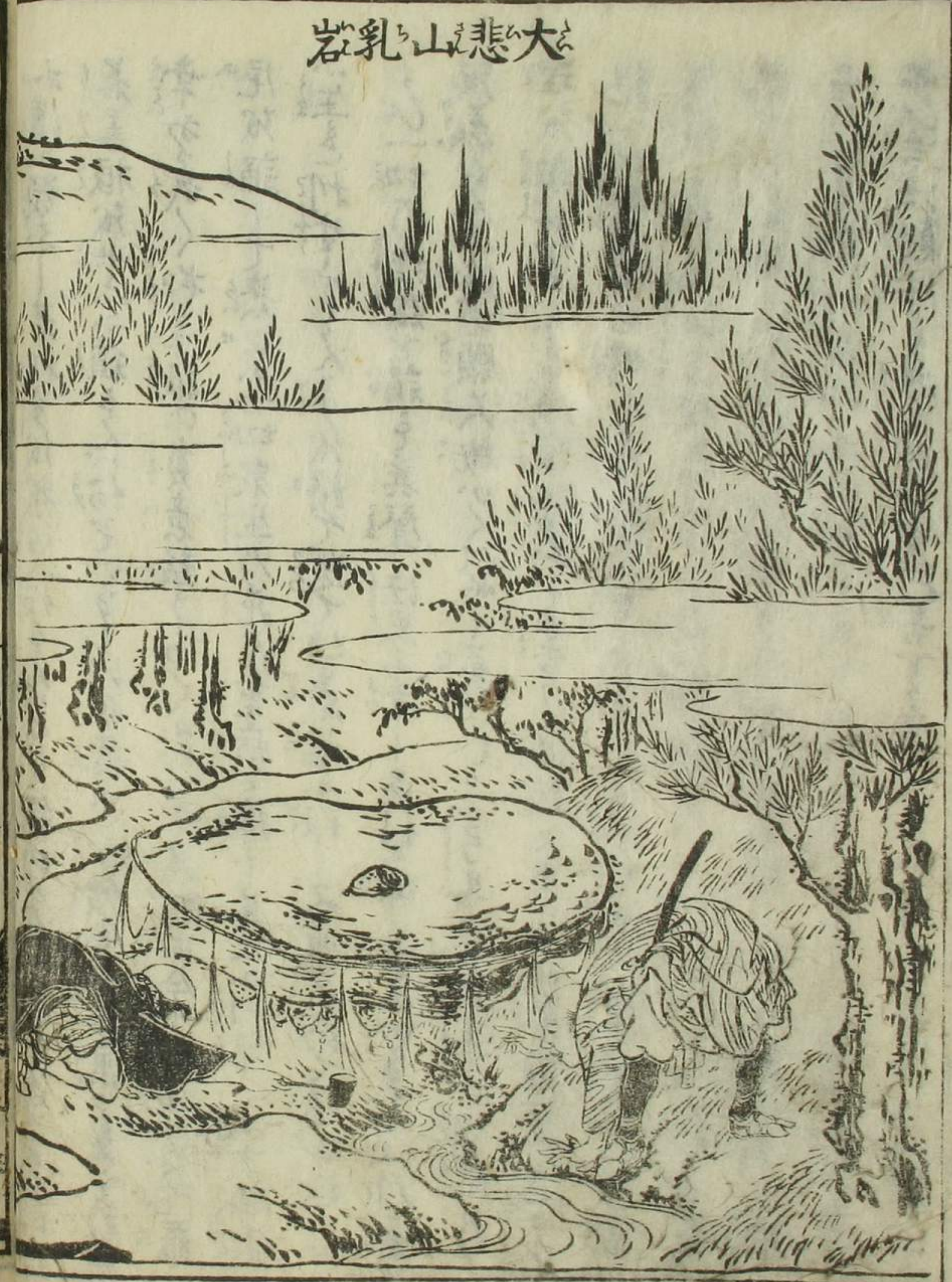
帆柱
 風
 聖
 森福

長杖を興おこし
 出いる中ちゆう小筆
 け奉謝まが惠連ゑん
 雪ゆきの賦ふふと
 書洩しよしゆ



多ク次乃峰大悲山の教奉乃中臺より石窟ありては是より一靈石
其狀鸞鏡の如し千手觀音寶鏡乃淨手あり大悲山の號蓋を以て
とを高く後海よりして人奉を希にた白天とを乃形勢より二
尺松蟻壤の嘲り遙海を望て眼路を遮はる百谷牛峰の編
り乃石窟の中央ありては堂閣の基跡と並久壽元甲戌年二月
二間の堂一字を建立し白檀二尺乃千手十一面觀世音菩薩の像一
軀を安置し奉を佛座の下に石寶と水の滴を奉宛擔留の如しありて
のりて因伽供し盥滌の充一尺二寸乃不動明王五寸の二童子像各
一膝同じく毗沙門天の像一膝同じく四月に至りて 仙院鳥羽 忽勅命
降て此像を請し奉を恩不意出く奉を鄭重あり歡喜踊
躍隨喜悅豫とむう唐の不空三藏に佛圖教嘗み六足肅宗皇
帝乃仁恩之令貪道比丘乃精廬を建るを寧禪定法を以て敷
とを二寶を歸して萬邦を治ると六度とを四海と撫り古今に業なく

和漢不類ふし若利生を救ふは必死縁の比丘弘願と云ふ奉を以て
若善根を此に殖とん何ぞかるに孤露乃少僧素意と果す奉を以て
幸ある哉抑善根の負意茲よりくはらる其一曰今生大佛頂陀羅
尼誦誦して來世一切衆生乃死乃重病と瘵し其二曰早く西方極樂
小生を利生とんるを佛を還ては巖岨に住し又通力を以て法華經を
よび一切の經論を誦と其聲法界を達しとんと聞くとそのまに利生
を救らん二途の願大概にけれや弟子むう弓馬の家を生ま因果乃
理を辨れ奉を以て岐嶺とありて業を漢釣と奉を以て春籠と一か
親父と密のの時ありて親父を命して曰平生の惡業未だ苦果
を顧と何為は方便とめらる一解脱と祈る一父子とむ斯奉を
聞て刀劔胸にあらるゆり行年廿五善緣忽に催し首を利て衣を深
とれより難行苦行念々歩々親父の何の所か生れ奉を知らんと
とひ造次顛沛し親父の苦を苦と受ると後知んと期を丹誠一心と



盡し奉念二年及び夏中父の貌死々々身馬面人其後二年を歴く
慈那山那智如意輪堂小春詣て又夏想を我父面人人身の獅子其後十
一年経て播磨國八塔寺小修行を蓋十一面觀音乃靈地之夏中
觀世音告之曰汝父を小降去小生を前後之夏仰で信する又童子
平生の業紙墨存するもの如法の儀式かして妙法蓮華經八部
書寫し一千五百日限と久く常行之時経修し又常行常坐乃兩
之時と修し又千六百日経歴し又二千日経劇て八曼陀羅香戒燒其間
常坐之時経修し心神全く動せと此外大峯小修行志て之箇年を送る
自餘の少行委く記と不違あり又我父夏中未考と若て云海常小
山林ありて敢て聚落小交る未考り於戲山林の睡眠如未考れと
讚嘆の聚落の苦行の菩薩されと祇訶然人誠哉斯言干時
久壽三丙子年仲春二日佛子西念聊由縁と記して未考小貽と也

少納言入道 法名信西

乳石 當山門より南十六町をりありは所 石の狀表平して重なる方
乳房十四箇所ありて人跡稀なり
滴る落る乳を婦人乳水と飲せバ乳汁出ると一十年後國
乃者此所へ來り山の乳房を礎て家作りおくりしに忽悩れし多
大の崇坂をたふさるる所へ返り盡る其乳房石は石上あり
當ふ所に乳岩明神と崇免護法神と及華表の乳石あり一町をり
去りてあり都ては源谷嶮岨ありて樵夫も歩し子不知案因ありと
見ると平協いごとく乳石谷二町をり入ると之奉教とあり大木
ありて又類し稀也

本州綱目ハ石鍾乳とあり 凡日類と云く又石鍾乳の説
區ありと云く其一二と摘んで云ふ奉教石鍾乳ハ大山の源谷
小生と石乃津氣鍾聚て乳と云く又滴溜て石と云く故石
鍾乳と號く時珍曰按と云ふ范成大が桂海志小説こころ甚

詳明之云桂林の宜融山はく洞穴の中石鍾乳甚多し作て
石脈漏起る處を視れを即乳状あり白くして玉雪乃かし
石液融結して乳淋下垂して救峯山と倒るるが如く峰端
漸く鋭て且長く氷柱乃かし杜端輕薄中空して鷺翎の
如く乳水滴瀝して己に且滴り且凝るるれ乳の最精きとのこ
竹管取以て仰ておれと取る 下畧 慎微曰柳宗元崔連別與
書云石鍾乳の草木乃糖なり土不依るこの陰陽の居るあり
本は近く石不附てあり其性移るる直る石不産は石精粗疎審
尋尺時異りて穴の上下土の厚薄石れ高下其差さるるの
固一性なり然も其精密ふよめて出るとの別油然として
清く旧然として輝あり其竅滑りて夷る其肌廉して微なり
されと食を人として栄花温柔さるる其氣定はふして四日
放生腸と通し壽老廉寧あり時珍曰石鍾乳の陽明經の

氣分乃藥之本經曰欬逆上氣痰治目と明り糖とを
五藏と安し百節と通し九竅と和し乳けを下に別録曰氣とを
虚換と補し脚弱痰冷下焦乃傷竭痰療一陰と強くと久しく
服るとは年延へ壽とをそ一教を好して老を婦人にして
子ありし鍊せんとされと服るとは人として滋さるるは又曰
乳け通せざるは鍾乳粉を濃煎し用ゆありは通茶と等なりて
末く米飲し練丸し方す乃し比して服るとは本日と三たび必驗あり
柳當心とを救峯山抱して五嶽の嵩の廬心乃金芙蓉といひのべし
洞の觀空上人の塚は後ふあり今も讀經の聲は響く耳底乃
客とるるぬされと訪はせし中に入るとは松間乃ありは溪の水音と響く
で乃あり却て地勢の峻きとしてされは攀登する石角の玄と釣岩は
首は止む常は啼鳥稀りて床乃音の杖葉の淋しきは觸れては
堂乃眠るは覺と猶多く志を風吟しては峯の本ははしありは



河のふれへ絶て
 去りしとこのるり
 其水のらりけり
 大巻の真ある溪川
 大木を筏にそり
 大井河小流とけり
 水神陽侯のらり
 又へき



右木曾宗
 水神陽侯のらり
 又へき

月小傭とて断腸のさしとのづきをたれあふと香添くく
敷尺ふおよ鏡石といふを當ふの類ふあり至って峭壁より登
峰のくす門ふみ枝の大本有りて株の半より敷十奉ふり
おのく直生立ぬ又當ふ乃小滑谷といふ所をむり後寛徳
の室家一族をみ思ひ住しといふ今も當ふ奉堂の下ふり
一類乃塚あり九町坂の谷を隔る南の方といふ所の地還り
とい道より來樂しやんとおんは坂の登り宗天満宮鎮坐
ありまんと
あれ孤知所路天神といふく今路埋を州路といて通
者掃き
久多龐と遠は奥といふ飛泉敷大之は所因の上人れ
の行場
今もやういふ此路より幻現しやう人のやれと城丹波
の園塚
嵩寺より半里をくり小あり都ては地の名存り別所
大布施より
出て常小心中と棲り農業少く樵多くして所を炭
竈依り
煙絶と女へ炭薪取首小戴と牛馬小はけて鞍馬の市
小運ふある

本の枚柱枚は石石の細野等あり

花花の嶺嶺の山山の鞍馬鞍馬の乃乃の小小のありありのははの間間の小小の唐唐の檣檣の岩岩のととのいいの大大の巖巖のありありの高高のササのレレの五五の丈丈の餘餘の又又の

寄生樹あり至りて以て木として懸るなり又樹乃株一本ありて千歳松と云ふ

車坂車坂の上上の加加の茂茂の方方の十四十四の五五の町町のありありのははの坂坂のととの車車の坂坂のといふはむり惟喬親王

故のけ名ありといふ

備樹山備樹山の車坂車坂ののの半半の里里の登登のるるの奉奉の堂堂の半半の里里の

雲畑雲畑の峠峠ののの一一の里里の餘餘のありありの是是のよりよりの小小ののの方方の村村の里里の乃乃の惣惣の名名のははの畑畑の中中の塚塚の向向の畑畑の中中の畑畑の出出の谷谷の

牛若丸宅牛若丸宅の地地の中中の塚塚の向向の古古の松松の一一の株株のありありのははの鐘鐘の樓樓の松松のといふ由縁あり

惟喬般若惟喬般若の中中の畑畑の村村の總總の堂堂のありありのむり九龍山高雲寺といふ寺ありて惟喬親王乃

雌鳥社雌鳥社の出出の谷谷の村村ののの小小のありありの祭祭の社社の未未の考考のありありの惟喬親王田橋といふ村あり

岩屋一鳥居岩屋一鳥居の出出の谷谷の村村の乃乃の小小のありありの性性の還還の乃乃の中中の小小の立立のててのゆり乃人其中に

後京良院八百歩あり

岩屋山金峯寺

出谷村乃小あり激陽より
五里一勢居より十六町あり

真言宗ありて樓門を金剛

力士坂安に額へ山石屋山と書して

後奈良院乃震筆あり本堂

崖造りありて奉尊不動明王

立像五尺餘弘法大師の元之脇士ハ毘沙門地

山脈あり

藏尊坂安金に又脇壇あり弘法大師ハ像あり大日堂を本堂乃

西のありて別大日如來役行者坂安に

折當ふ久代天神醫道乃祖神藥王薩埵と化して出現し其靈

場より其後孝徳天皇の清宇白雉元年ハ役優婆塞くらんて洞

道坂踏つけけしふ登り教月禪定後一薬師如來の靈告とて

當ふ坂田基に又厥后淳和天皇の清宇天長六年ハ弘法大師は

ふ登りしふ神童出現して曰ふ者てあに待来久し早く之密乃

松法坂終一王城と鎮護し且一切元生乃法預と成就し病悩坂

扶助し人々と教へつゝ其當ふ乃守護神ありとて飛龍と化し忽龐

不入其星ふありて大師飛龍權現と崇め龐のふ人ハ勸誘し人々

雌社

岩屋鳥居



又並橋



推現の告ふりて大師のくく不動尊の彫刻一千座に護摩を修し
移へて是處寺乃本尊なり

○奥院 本堂乃くろ乃巖上の遊 本尊不動明王 立像五 宇多天皇の御願

かゝりて管神の清化なり 御即位の御願 天降安令の清祈禱して清戸開あり

○天神宮 堂前乃 當山乃鎮守とし移入遷宮乃阿闍婆一柱一夜ふ生れ

故に松天神と號く

○飛龍瀧 本堂乃後乃 岩屋瀧とも杯に瀧乃くく飛龍権現乃祠あり又

瀧壺のくくくく飛龍童子乃親白石あり風狂の者當ふくく

本尊が礼ねくく瀧浴とる本日毎くく度りて平金と祈さくく忽驗あり

○弘法大師護摩洞 瀧乃くく け所ふおわて大師密法を修し移入て大師

乃洞窟之けくくりの石毎くく經文鮮く居る是大師の所化とく

○香水 奥院のくく 巖窟より滴生とる茶王薩埵け水と穿出しく法華經

灌洗し移入て其香今ふおいて自然くく董くく移くく

苦乃者まれと服とる金どくく奉りて末代とくくくく香水乃譽

世の高一又の薩埵仙人化して諸藥採調くく舊跡と上ふ

○役行者座禪石 樓門のた乃くく 上

それ當ふと疊嶺巍々として漢乃劉阮の藥採採く天台山の面

親あると洛遠くして白を封くく飛鳥寒くして峭壁の趨る銀河

乃三千尺もくくみんてあり花散誘ひ紅葉散連て落

洞の水のくくと岩みわけて若粘江桂子昇降は物としてけく

石室岩洞多くして壺中か天地と縮先神仏のおのづくく家

ある乃奇境なり

○棧敷嶽 岩屋のくく十町餘 け所四面みふくく嶽の具上ふこれ

あり是則惟高親王遊眺をの高樓ありけ所は地の南れ方

一面ふ晴て就鳥峰を置の翠嶺生駒葛城の高根あるを難波津

乃のくくく眼中の客とけりぬ絶頂ふけありむくくけ地ふ於く

土器金具乃類種々の器物を掘出た後まともな家採納まは鬼
怪異乃事何のてあるい悩乱しあるい狂惑に人恐怖くえの地
み送りて是則か乃親王の所所用の調度りありて又云む
よりけ地於て鶏鳴きあり由縁あるに又曰た麓の林の中
二本竹といふあり其た枝の如し一本生じて毎年一本れ争
生に其長どもふおんで初の二本おのづう枯は是親王乃鞭
さしぬるが今生れりてを又けぬれん腹も若間より清水漏出
至く清泉ありて寒暑も増減なし是ハ親王田獵し終りて
鷹ふけ水飲飼し免り所之故も鷹乃水飲と号をふるり
これに樓臺空しく朽く千歳乃むりとりぬ薄荷蓋
茫々とえげり鶴鳩乃聲こもあくふ聞ゆ鬼火も爰とて只
杖風のさ蕭々として今ふかりて

小野 岩屋の小二十町餘あり野ハ石野ありて中ハ村あり東ハ内西ハ内
上村中村下村真子細川等あり

小野篁社

祭神小野篁の靈あり生土神と云例祭九月十六日神樂一基

篁傳

冬議岑守乃男して元大辨從二位あり承和二年二月ハ

配流

せしそ後波國ハ遷居同七年四月勅許を蒙りて歸洛に同

八年

因四月奉位ハ任仁壽二年十二月廿二日薨と云

落葉宮

下村民居良一町ありあり祭神柏木湯門ハ女之宮

御栗栖野

西ハ浅大門村ハ西の野と云は所いハ大内裏の時祭の時馬

冰室社

紫竹村ハ小二十町餘氷室村ハあり祭神未考ハ所ハ南に

氷室あり

そのひむりれくふ紗その花箱のり

千載

下さゆる氷室乃心のとて極深結る雪うとをいん

同

あがりき涼りりり氷室ハほうせり水のあるのこハ

新羅

限のこハ雪乃ける日もさる氷室の心乃下は本

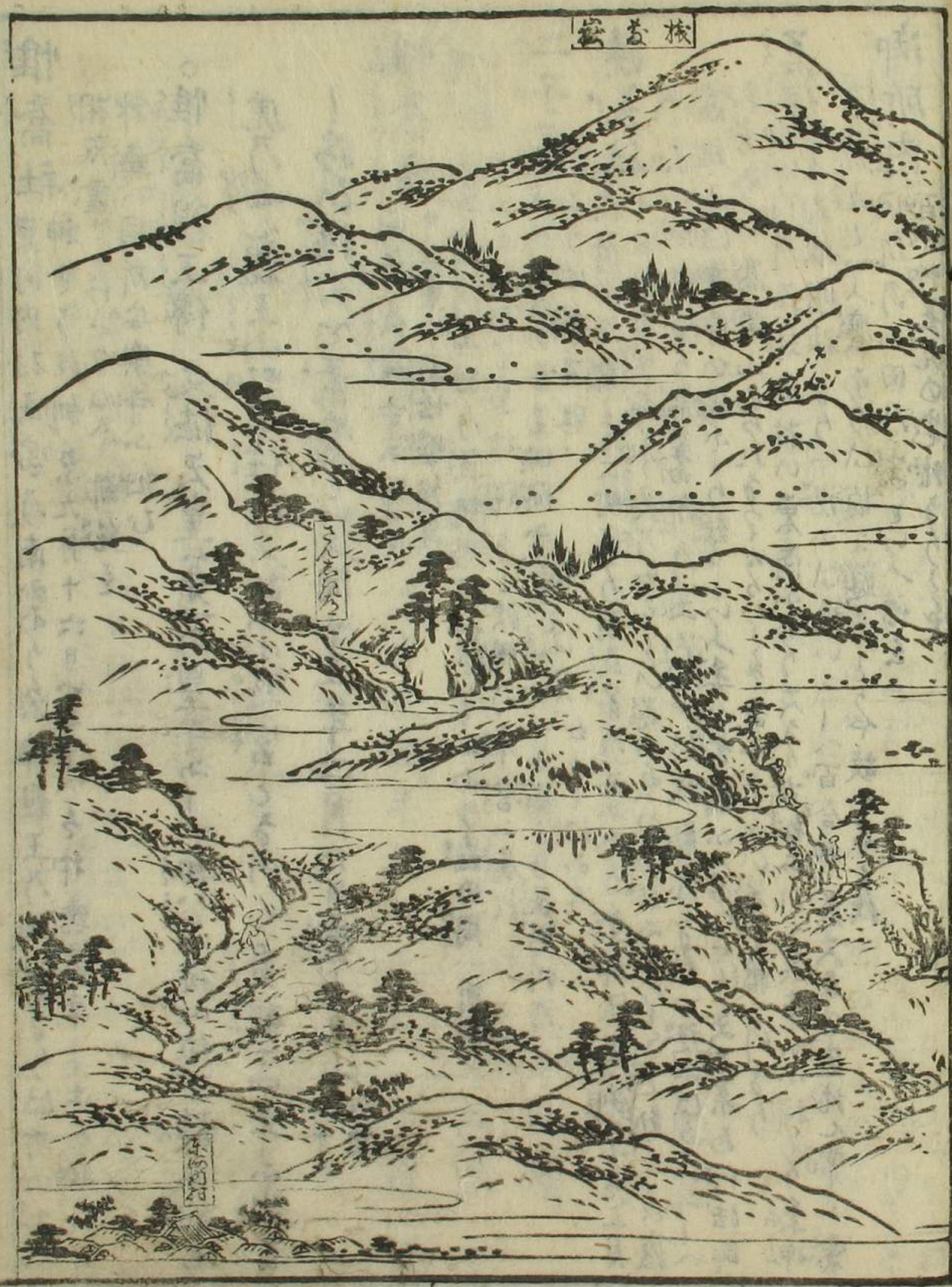
延喜式

氷室ハ城ハ及び諸國共ハ五百九十六所ハ

富國

氷室乃地多クハ廢して今終遺まこ

源伸正
大炊清門
右ハ片
順徳院



松林

松林

松林



松林
敷
嶽

松林

惟喬社

東河内村民家乃南あり祭神親王乃神靈なりは所の生

相取盡してつひに今断絶と

惟喬親王傳 文徳天皇の皇子にて母公の從四位下静子紀名

虎乃女之親王小野の住人故小野宮と云く貞觀十四年小出家

しひ法名と素覺といふ同十五年二月廿日薨じり

二十
六歳

惟喬塔

同所長福寺あり

山本林

西加茂川上村乃良鴨川乃あり森の殿一町計

二子塚

あり由縁不詳 婦たる石 二子塚より良鴨川乃

須美社

日所小乃端より二町より南民家乃西あり祭神未考例を二月

若緑社

日所直珠庵村の東南あり大なる古松あり具本小祠あり祭神

御所内

明所乃小田乃字といふ傳云

小野道風社

小野庄松坂村あり正一位武大明神と稱す土人生土神

小野道風社

坂村あり正一位武大明神と稱す土人生土神

坂村あり正一位武大明神と稱す土人生土神

工部芳聲大靈祠此屹然臨池千載業誰復繼斯賢

寥々杉阪傍樹鬱明王堂不見塵寰色梵音風外長

香水藏山頂炎旱曾不枯人言傷喝客一嗽即神獲

道風千載久書比晋人賢欲吊墨池古先臨盥漱泉

一橋架峽岸臨眺自清奇恰擬半輪月思君在峨眉

淺深不可量朝洗僊人掌木末含芰荷翠色看來長

風流野長公墨妙孰爭雄欲見威神赫原泉滾々通

諸山相伯仲季子最蒼然誰逐延陵跡遜家耕石田

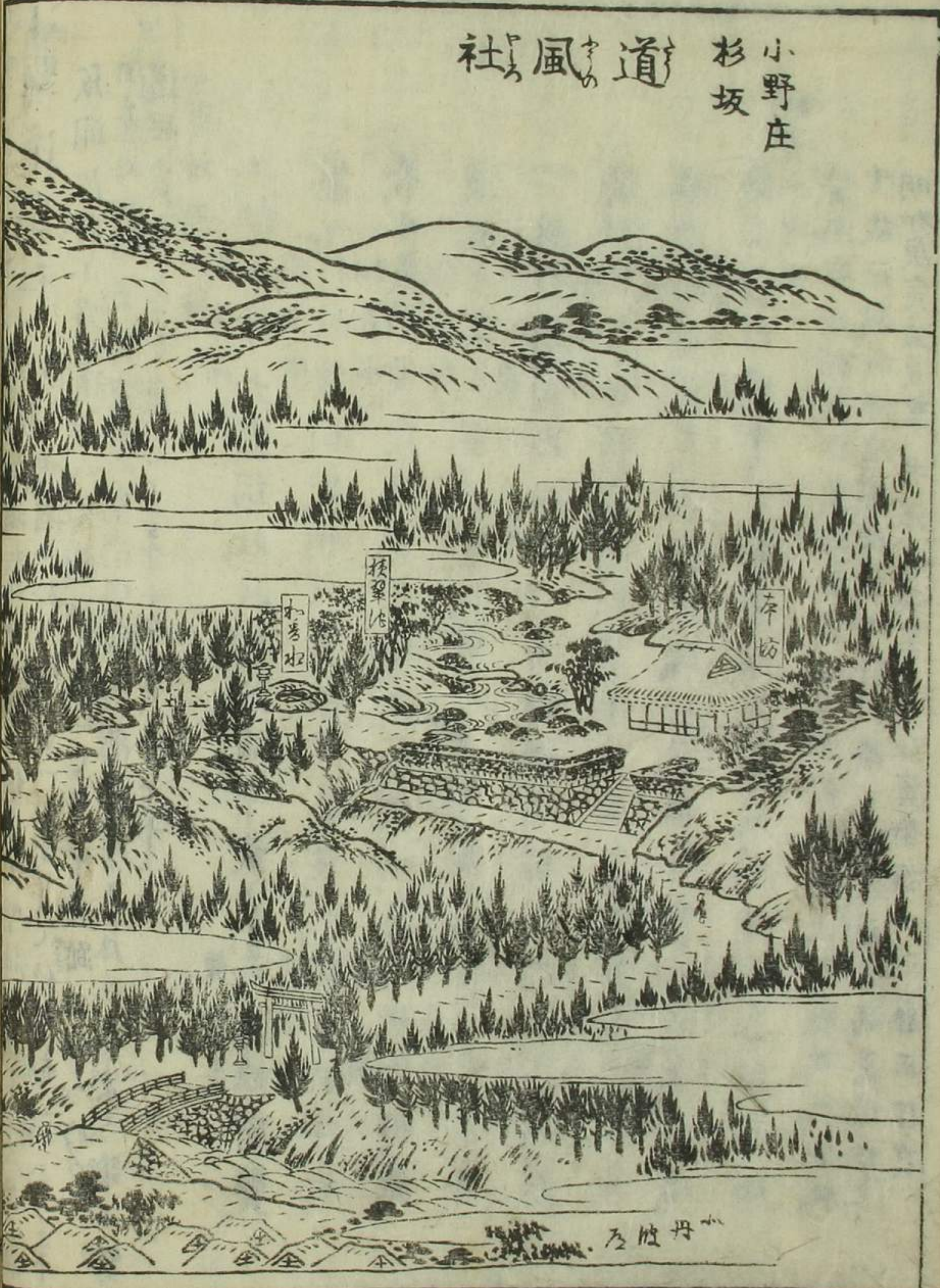
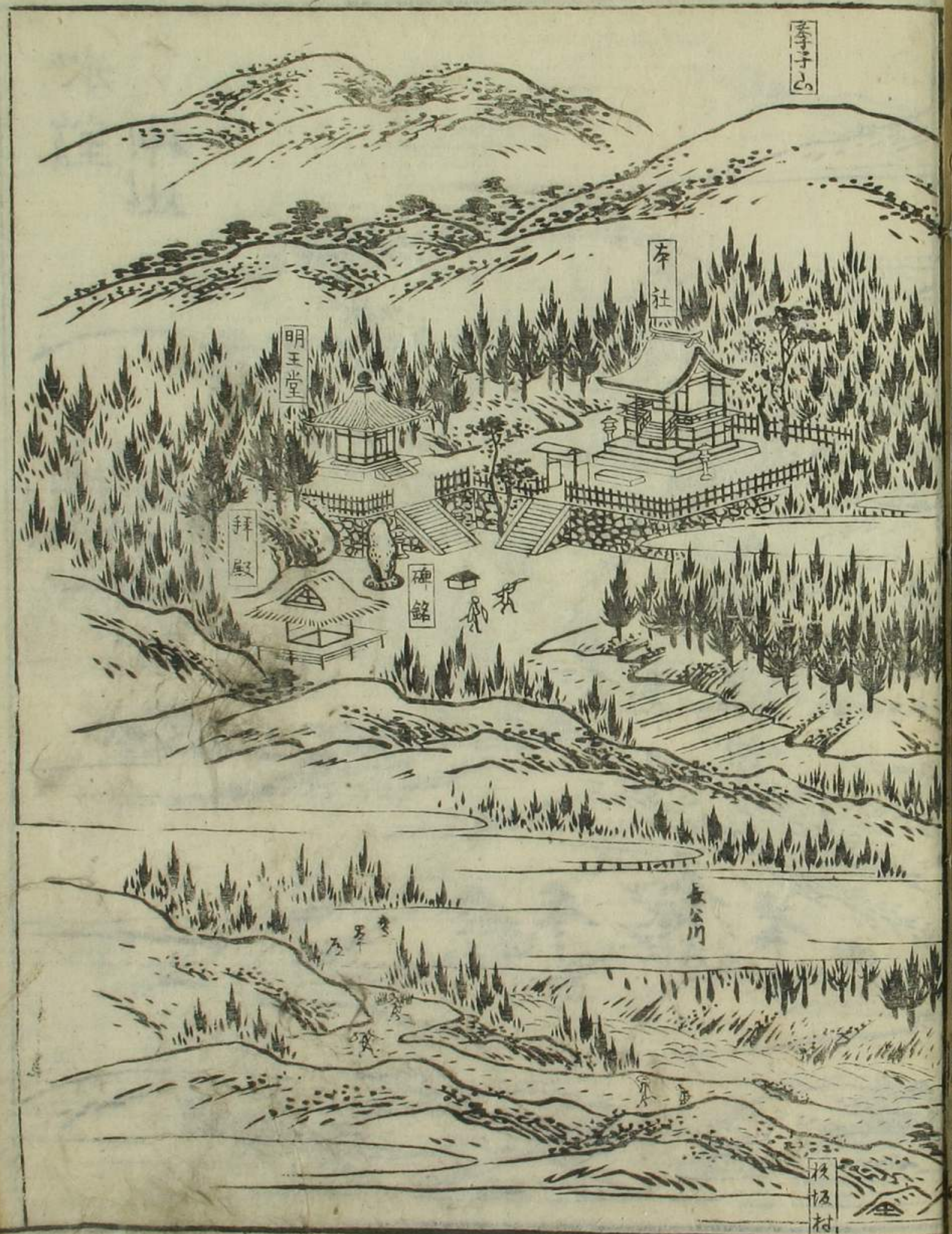
和香水碑銘

感涕靈泉杉阪之巔維神爰臨令德彰宣載伏旱魃迺利蛇蟻

千歲雖邈厥澤綿綿辟公斯挹式肅式顯迄用不竭萬億秬年

明和庚寅孟夏望井澤善興篆大江資衡撰近藤正信書

小野庄
杉坂
道風社



氷室神社



氷室

町

大宮 紫野 小宮 あり 多所 祀あり

小野 皇塚 紫野 雲林院 卯辰の方二町をり

紫式部塚 上小橋あり。花鳥餘情曰 紫式部墓所を雲林院乃

赤院白毫院乃南小野皇々墓の西あり。岷江入楚曰 宇治の寶藏

乃日記ふと紫野雲林院ふより一ふより式部八極那院僧正乃

許可系系そ天台一心二親の血脉ふ入とて夏てより雲林院乃

函用 坂まめりも青ゆへありや

天皇塚 雲林院村の東あり一説 惟喬社 雲林院の南今宮津藩所東の

若宮八幡宮 津藩所の西 藪の中あり 傳云 此より源頼光の居

頼光塚 源頼光塚ありとて

石不動 金剛寺あり 不動明王の立像六尺二寸脇土ハ金伽羅勢多迦

淨藏貴所塔 金剛寺あり 不動石 金剛寺小鏡石より一町をり

六清明神社 金剛寺の南 玄室五乃良林の中あり 糸針

十禪師社 龍安寺門あり 西あり 土人

仁和寺濟信法親王塔 山上あり

宇多野 仁和寺のわりの 大内山 仁和寺のうしろ

光孝天皇陵 仁和寺山門乃西一町をり 車塚 山家の南二町をり 湯塚

福王神社 仁和寺の西 福王寺村あり 糸針 孝天皇の後 寛平 去皇乃

宅摩塚 高野道ののり 右のあり 傳云 此より

の二神常 権護とて 語答乃 聲あり 宅摩あり

無日住吉 あり 坐に 芝相 あり 衣 等 あり

執事 あり 神相 あり 是即 凡人 神相 あり 冥罰 あり

小橋 あり

清龍河 梅原高山寺門あり 橋下のり 水原下小野より出ては地とる

新古今
花の香
夜はぬく
成みくら
本の下陰
船の
まなく
貴之

法室花見



目録
めけ乃い
茶の山
半時庵
淡



地藏院

紙屋川乃西あり... 淨土宗... 行基の他之又聖觀音と安んじ覺の他之

長名椿

當寺の庭中ふいみと花... 千代と歴へ... 子の若のふとける

北野御旅所旧跡

下立賣紙屋川の西あり... 小祠あり... 菅神... 野よりは所を續た

音樂之を律樂也

白樂天杜

淨土所の西有橋次宅地... 本辻村有御... 乃字とるなり

花園

妙心寺乃地とて... 花園社と妙心寺の西一町をくりあり

協地藏

下立賣乃西法金剛院の... 聖尊地居菩薩坐像八尺ありて

極樂橋

佛聖衆と奉迎の... 橋と見ゆる人なるなり

安居

地居堂乃卯辰の... 向あり民家あり村の名は地むくへ八條女院の

龍翔寺旧跡

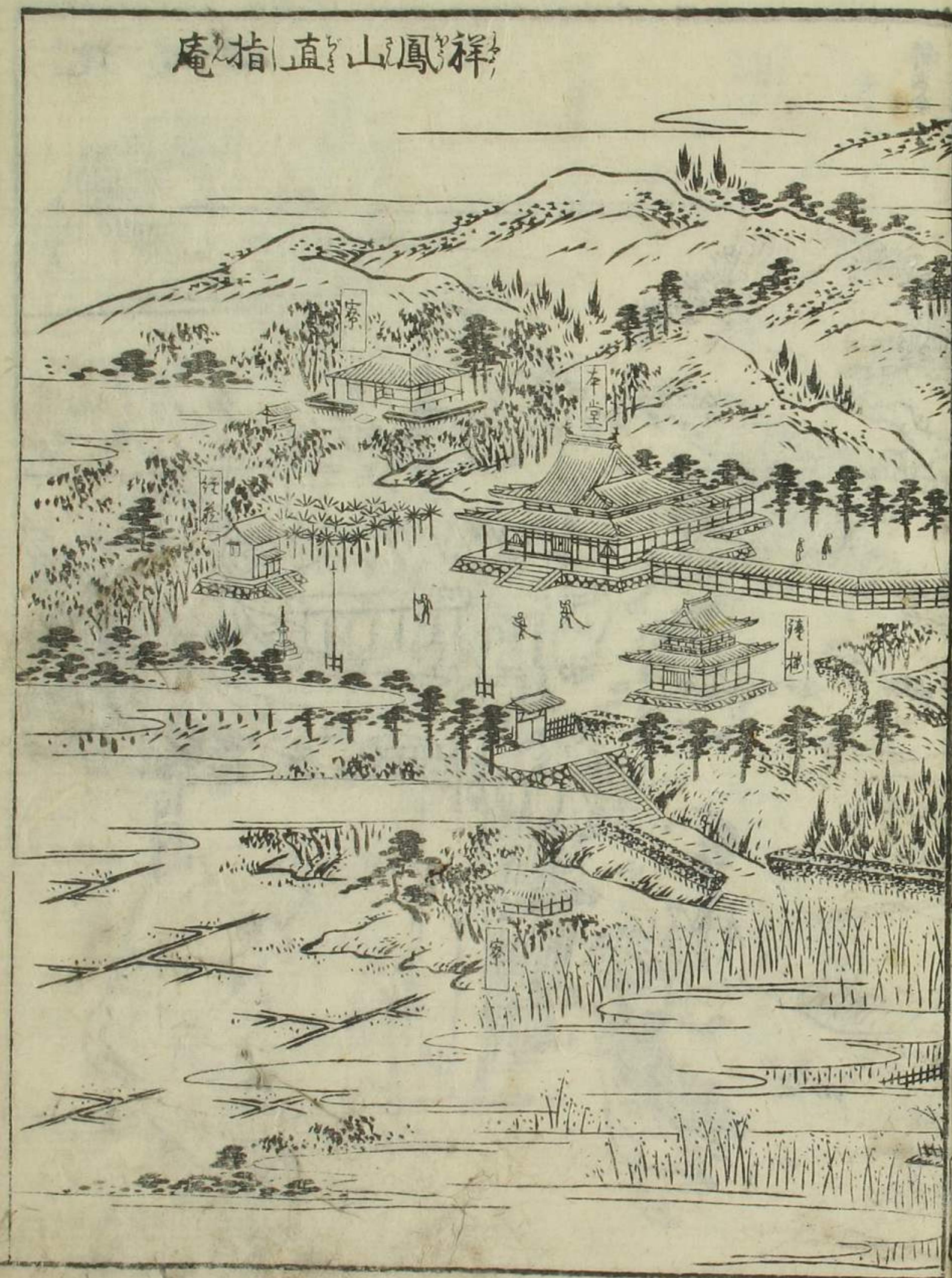
安居村あり... 後宇多院塔は所あり

常盤里



まき... 常盤里... 浄土寺... 浄土院... 源光庵

祥鳳山直指庵



細谷



北嵯峨

新古今

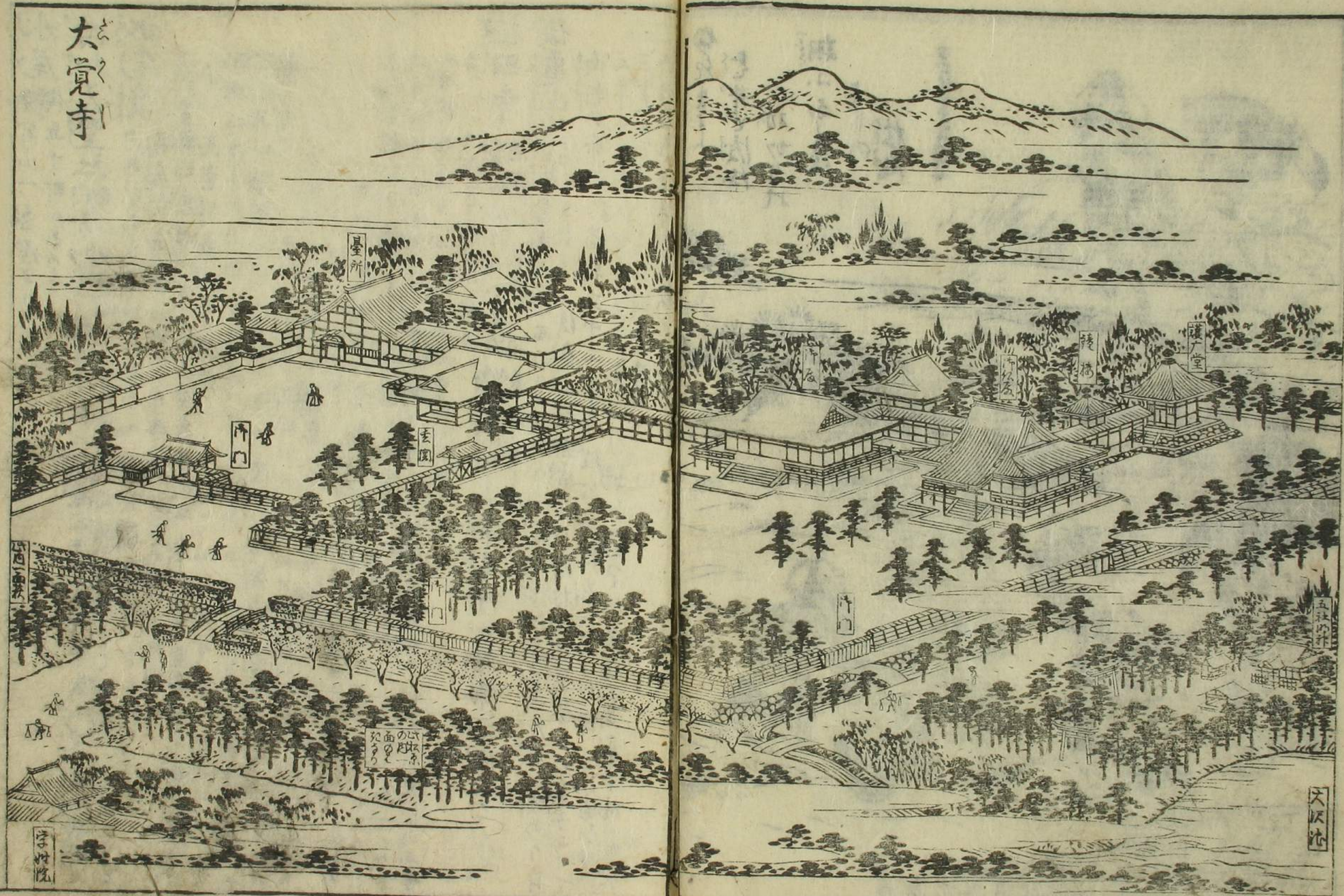


ゆれまゝ
きつと度
初めり
つきの
松尾

皇太后天皇成



大覚寺



大沢池

水尾 愛宕山一坊居より左の

清和天皇社 所記あり續日本紀曰宝龜二年十二月辛未山背國水雄園に

水尾陵 日所あり春和天皇乃中骨板藏奉所あり

三代實錄曰慶四年十二月癸未申の刻天皇圓覺寺崩し春秋

好書傳外立領聞教輕狂の便發言舉動乃際の禮度

水尾山寺 同所あり今荒廢して後存存本尊觀世音用基詳

又貞觀寺 水尾等乃二寺小使致遣一功徳板修

福田寺 愛宕山小坂あり浄土宗して本尊阿彌陀佛坐係二尺五寸

後龜山院陵 當寺乃西の隅あり五藏石塔後建る左右二塔あり詳

仙翁寺 愛宕一島居り仙翁町の山中あり古は仙翁人位しり

定家卿塚 小嶮平山乃南島乃中ありは所小塚あり由縁詳

生六道 清和寺乃成教あり本尊地藏菩薩立像二尺小野篁

中院觀音 定家卿の持佛之は奉進相親とて當時村役あり

西行法師菴跡 二尊院中門のをり運善院乃

辨財天社 日所龍女此の所あり龍女と勸請

山集

西行

山集

山集

山集

山集

山集

山集

山集

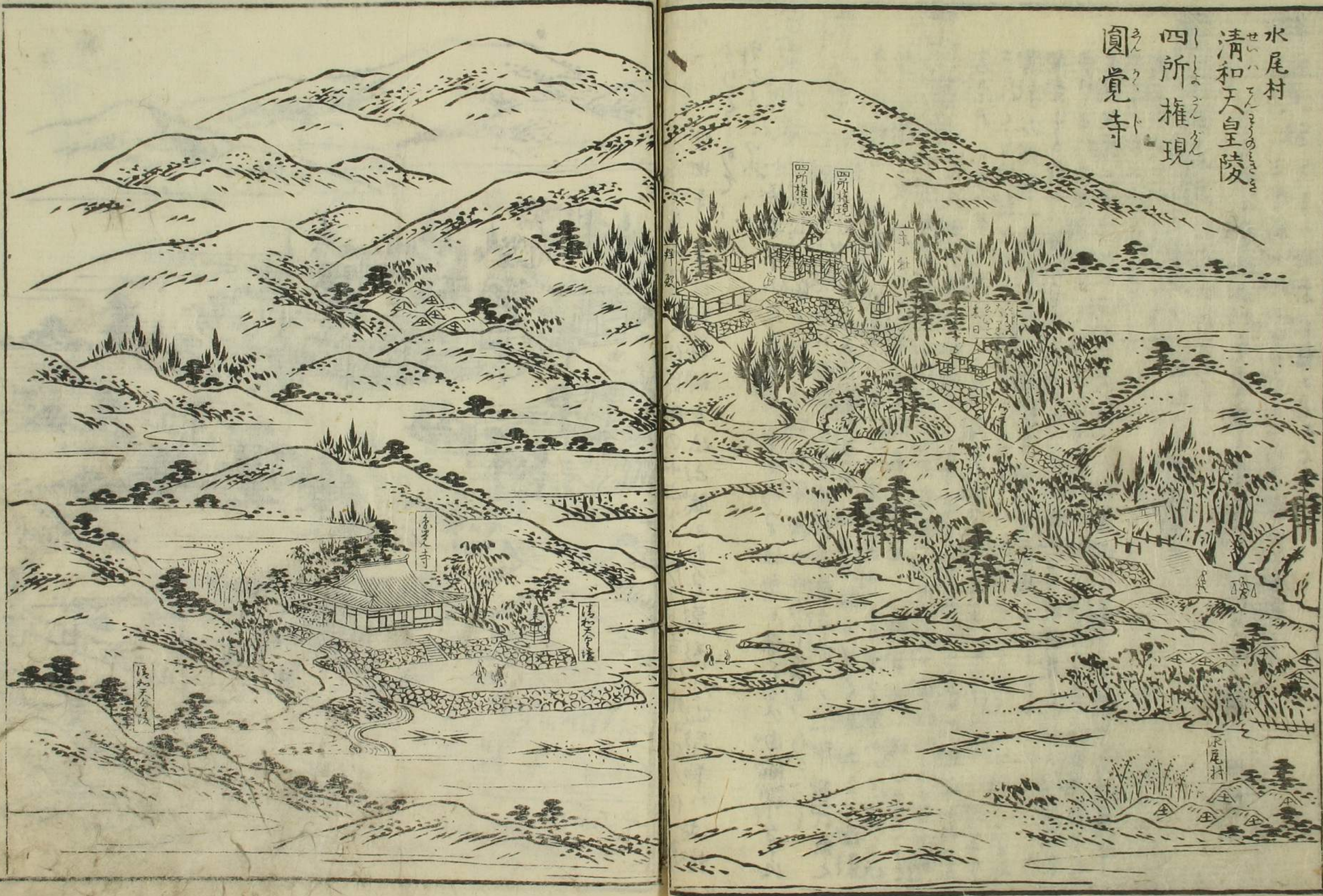
山集

山集

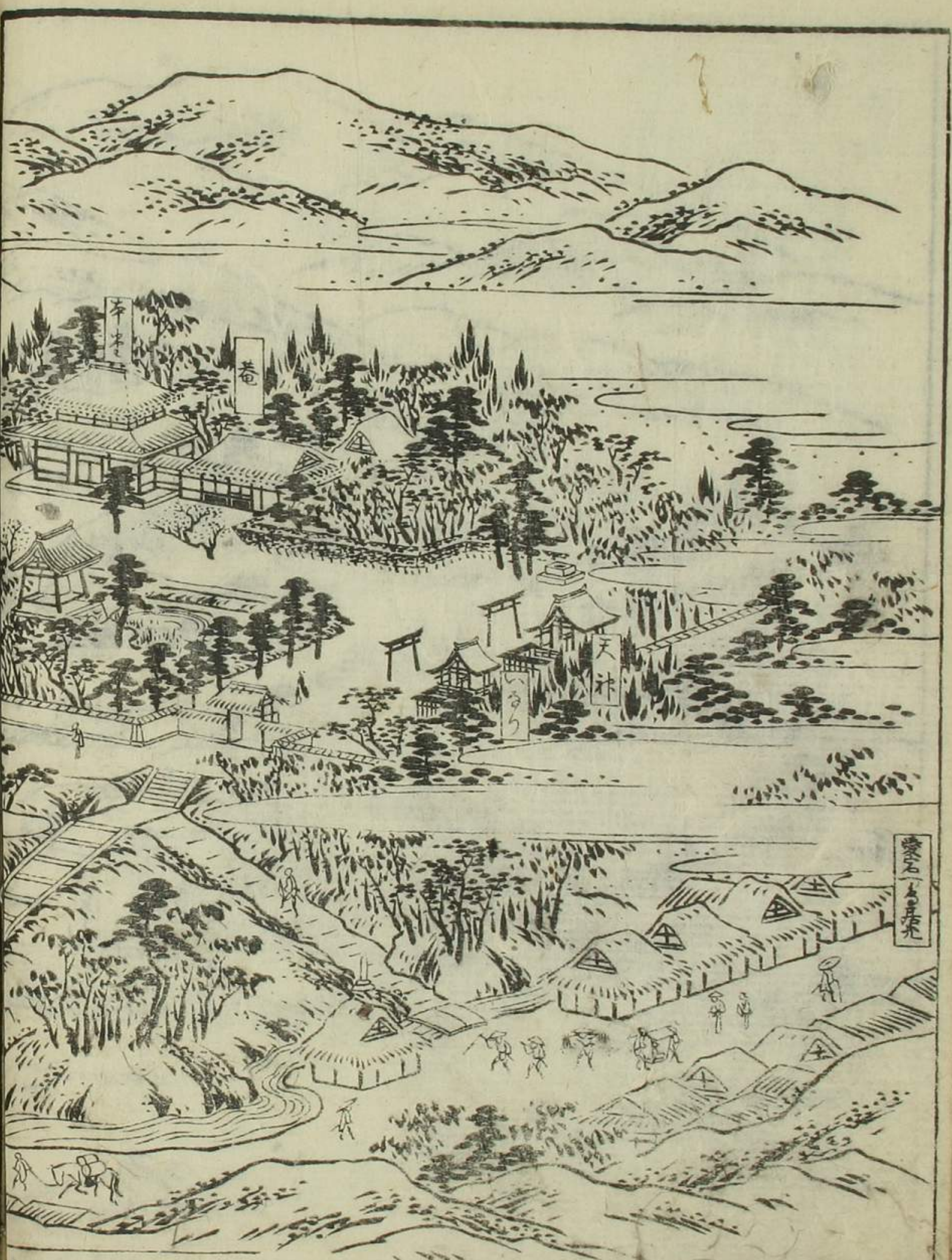
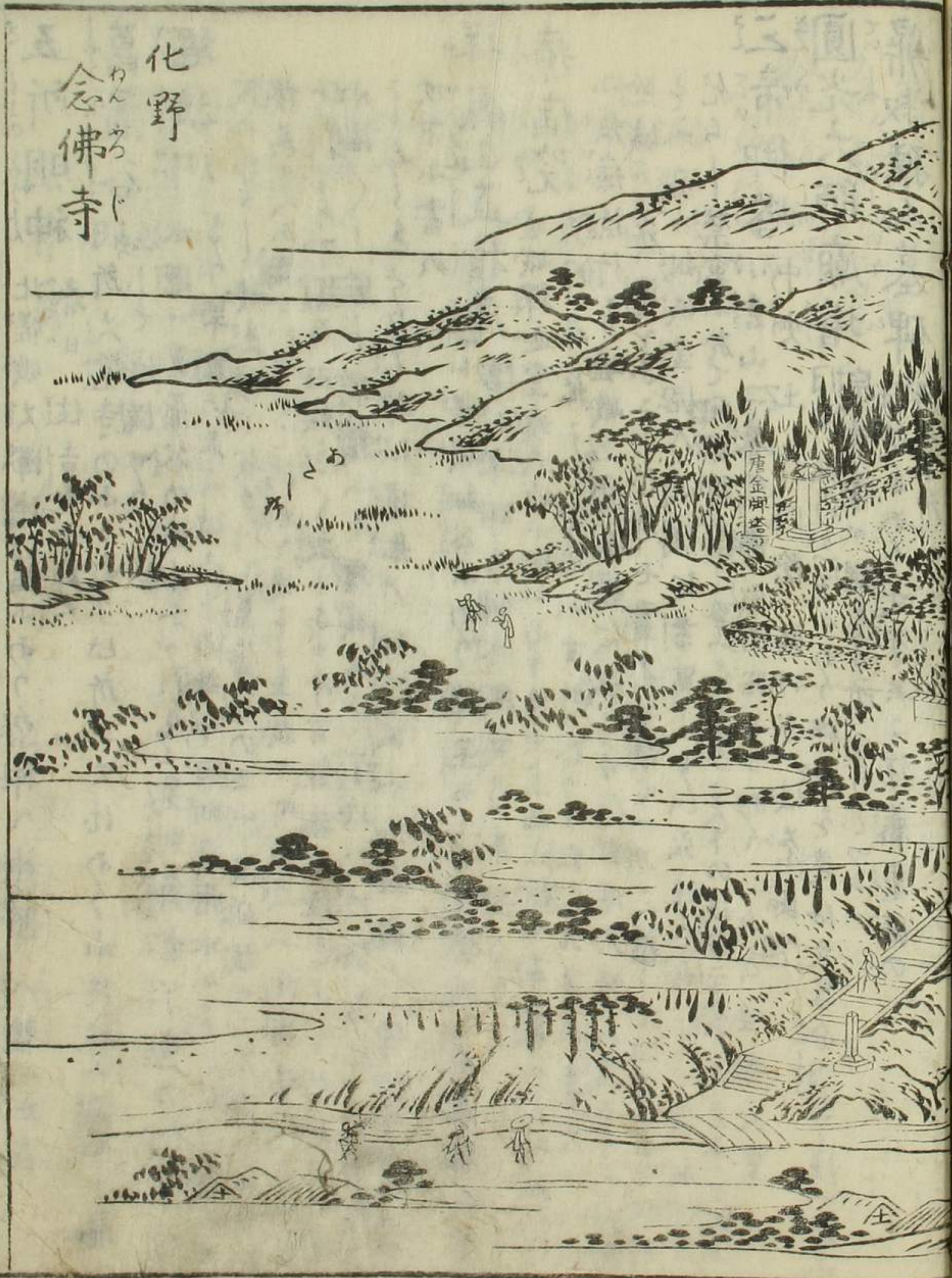
山集

山集

水尾村
清和天皇陵
四所権現
圓覺寺



化野
念佛寺



卷五

五所明神 北邊峨大澤山の西あり祭神ハ神明ハ體加茂

菅蒲谷 堀抜川 水原ハ菅蒲谷の地味ナリ是則角倉守意の佐所

堀抜川 水原ハ菅蒲谷の地味ナリ是則角倉守意の佐所

祥鳳山直指庵 嵯峨釋迦堂境内の小側あり律宗西之奉尊ハ

療病院 嵯峨釋迦堂境内の小側あり律宗西之奉尊ハ

三帝御塔 中倉山ニ尊院佛殿の西あり碑銘を建

圓光大師廟塔 宗景廟ハ撰所あり文字分明あり

鼎淑孺人墓碑 撰所あり文字分明あり

落柿舎記曰

落柿舎 小倉山下緋の社乃ハ... 柿の本四十本あり又ハ...

柿ぬーヤ本と来ハらりた...

建てはひひ...

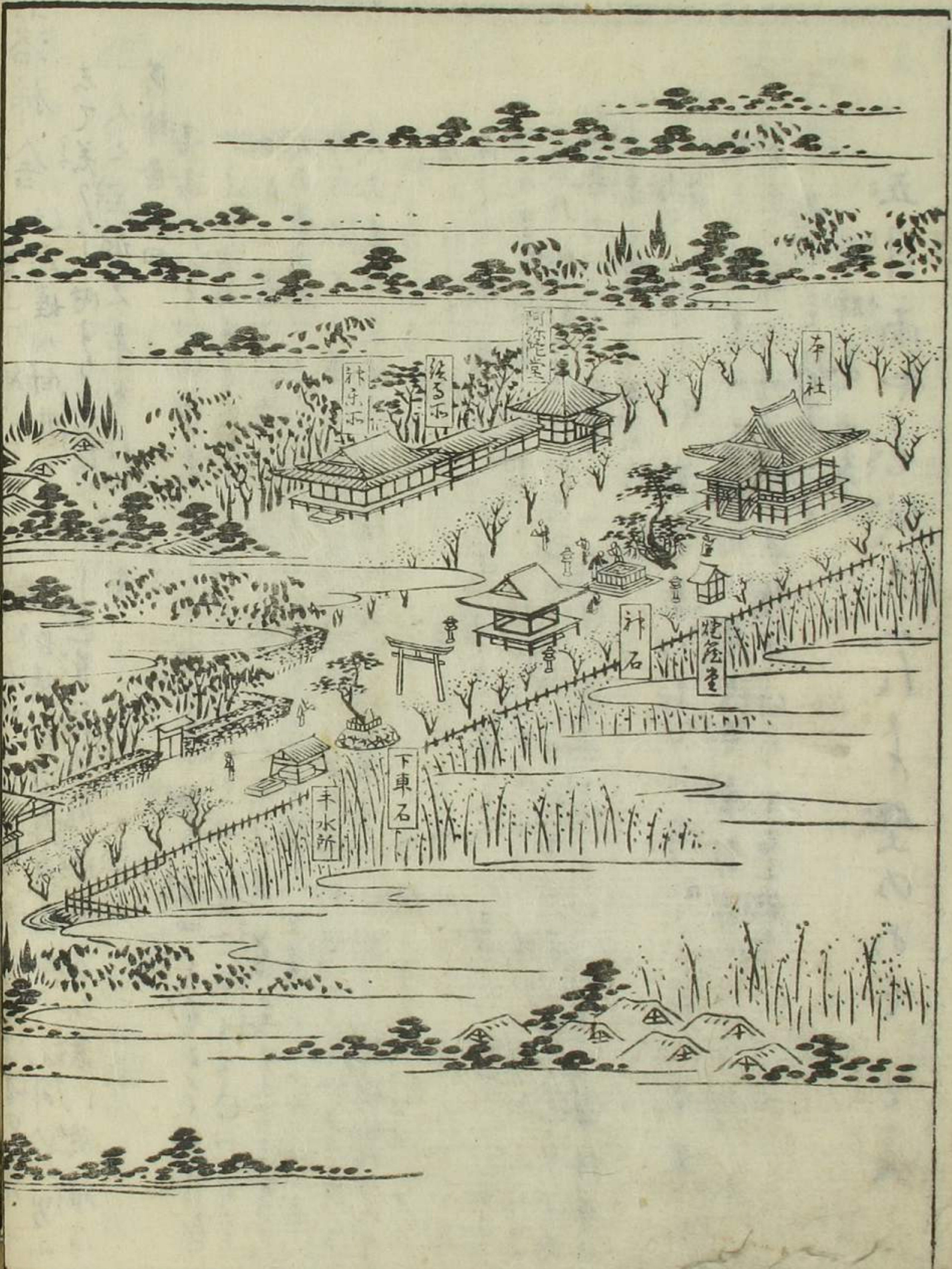
五月雨や色紙まぐれー壁のあと...

下嵯峨
 車折明神社
 系神ハ後白河院乃
 近長法系頼業卿之
 此人聰明格致アリ
 風流ト好ミ梅の花
 愛シク故人社頭不
 極多し車折乃
 由縁前編不尺ハ



上嵯峨

下嵯峨

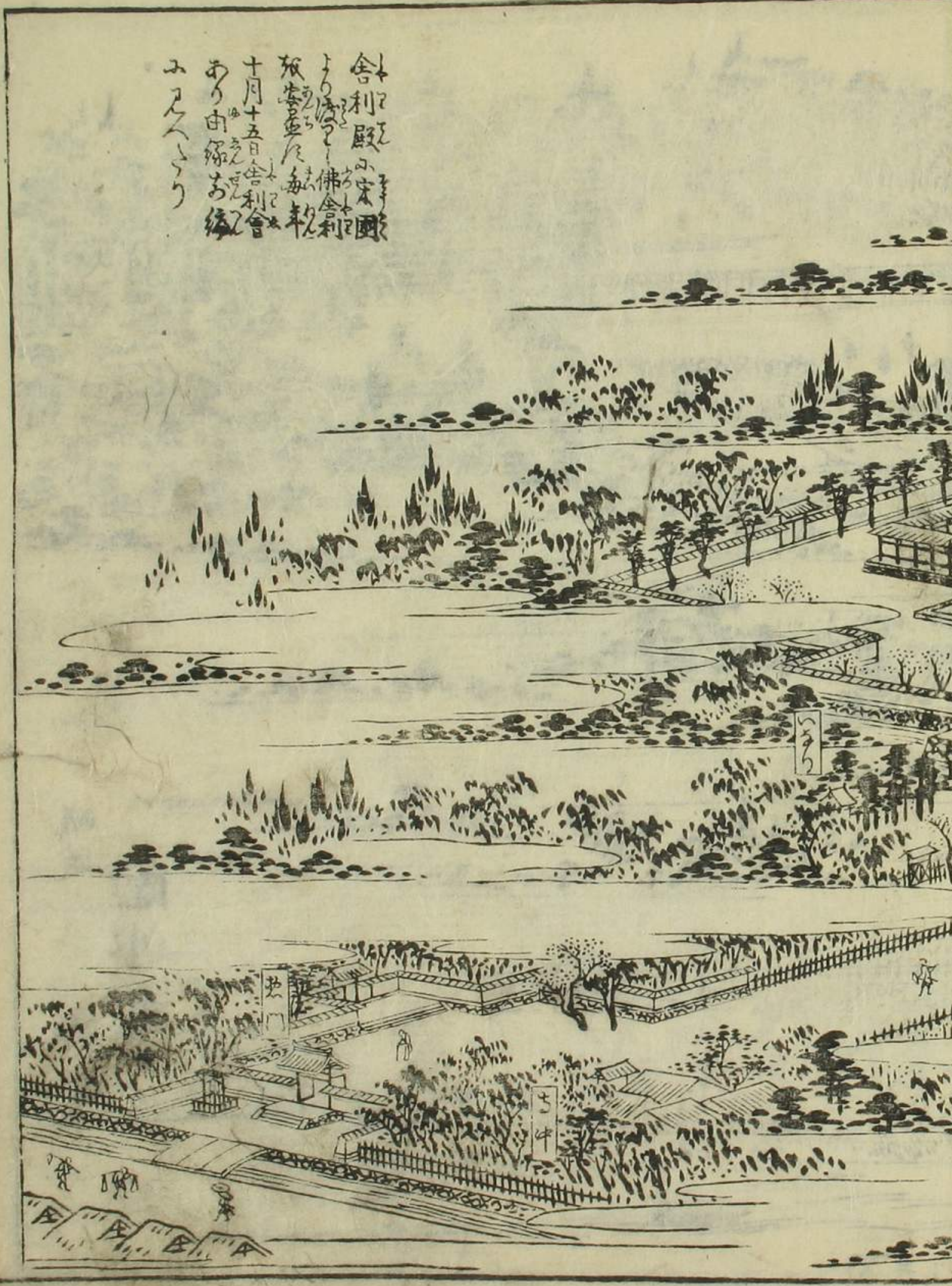


本社

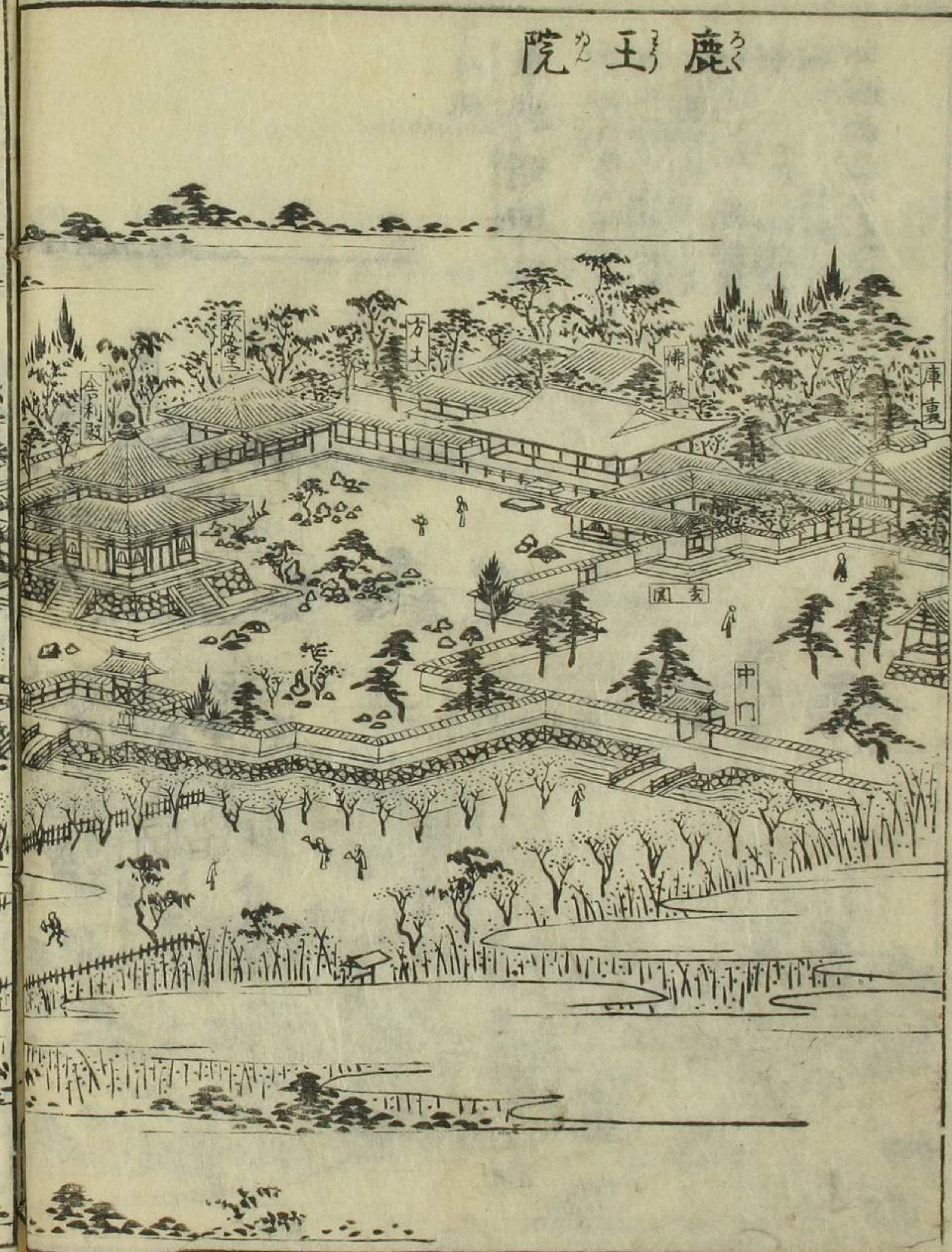
下車石

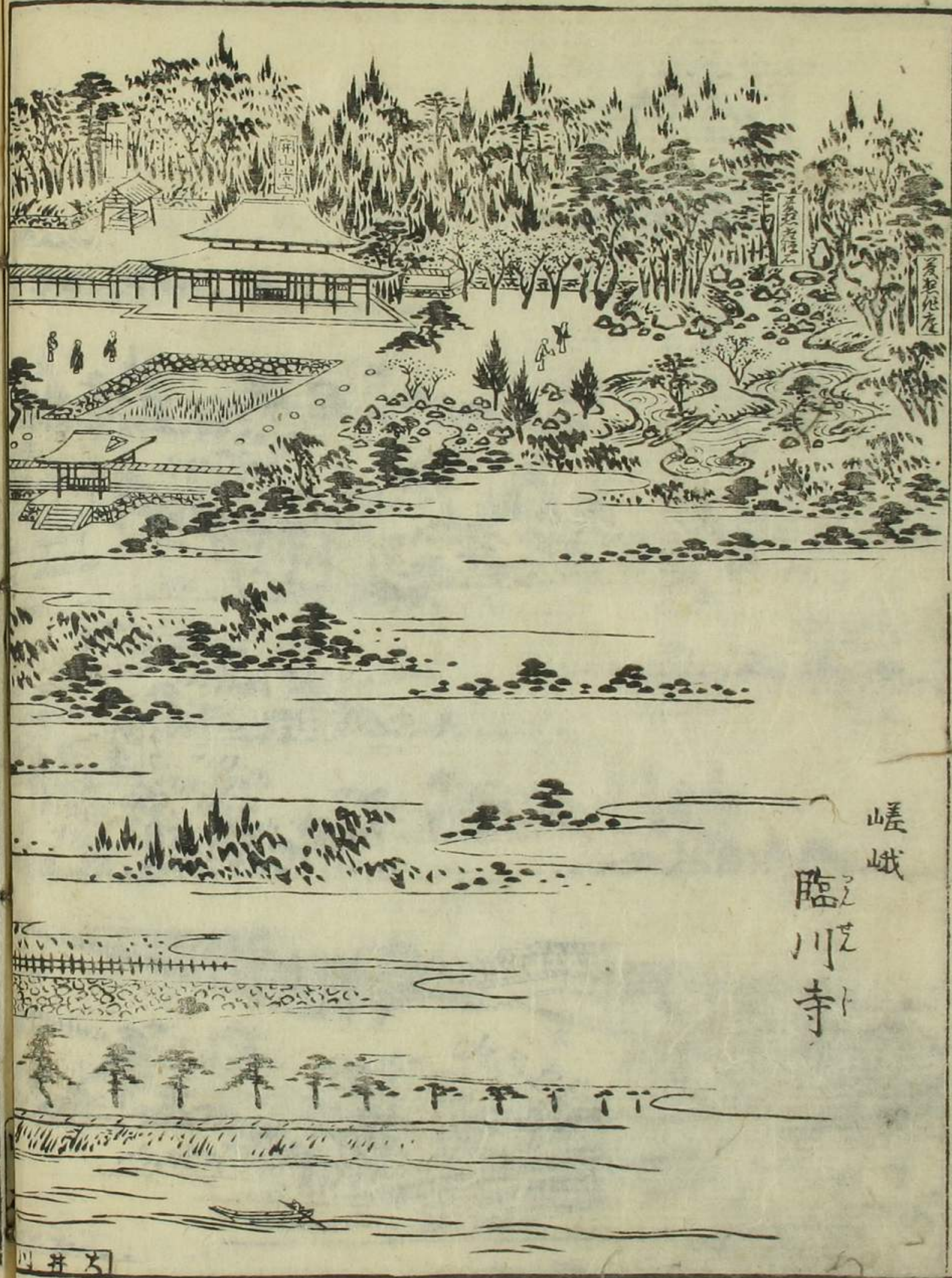
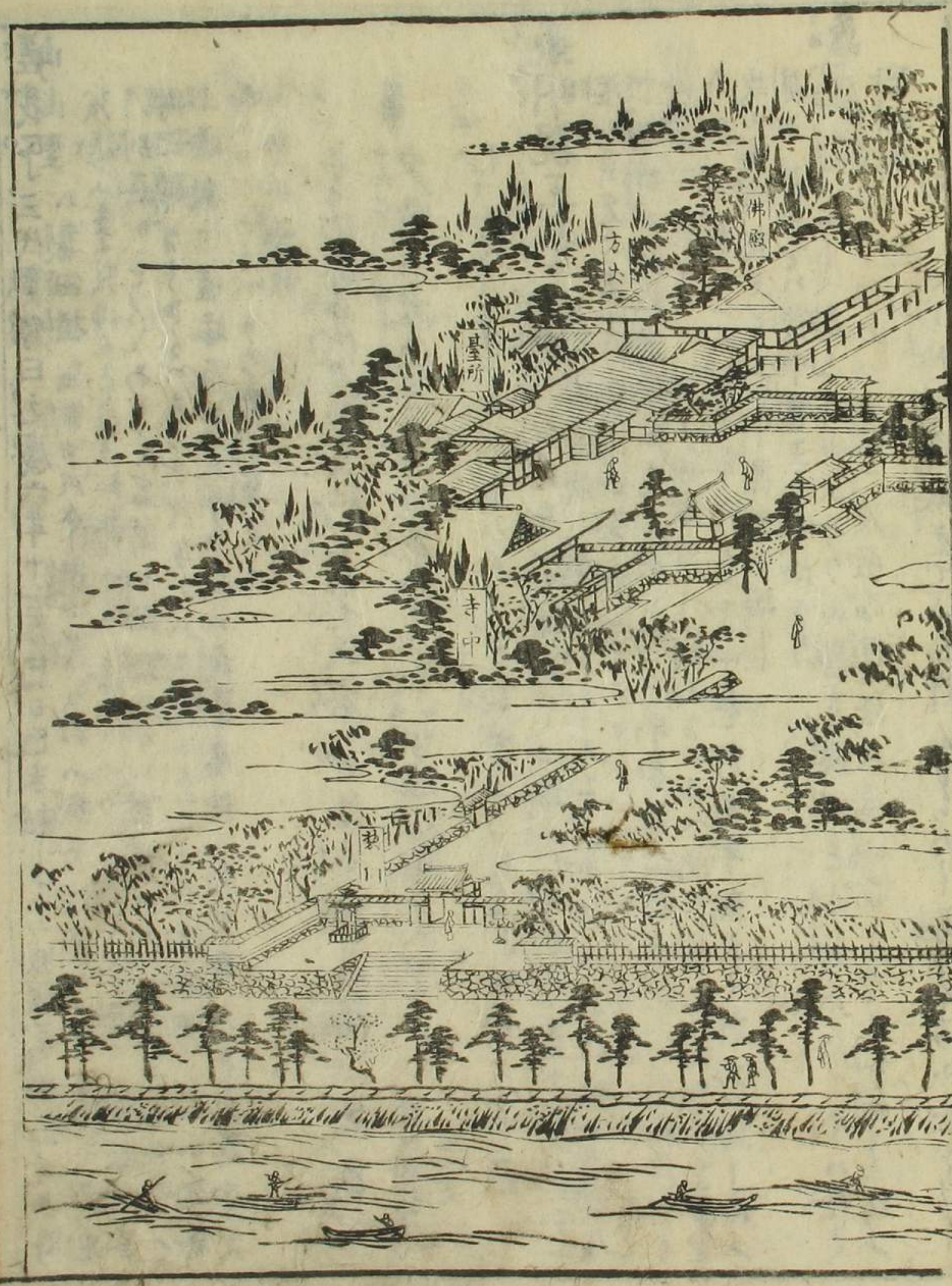
手水所

舍利殿
十月十五日
あり由縁
あり由縁
あり由縁



鹿野王院





嵯峨
臨川寺

嵯峨野

三代實錄曰慶六年十二月廿一日己未勅山城國葛野郡嵯峨野
 八畠田獵苑制せし新禁苑か一樵夫牧豎乃外鷹鷹苑苑鬼
 乃延慶初年よりありて名所旧跡ありし際限ありしと名ありて
 上庭記下に嵯峨野苑ありしとあり今人民家盡くたて跡とこそ所あり
 新古 忠定

夕雲の夕雲ハ秋の夕雲れ春の夕雲ハ秋の夕雲れ春の夕雲ハ秋の夕雲れ春の夕雲ハ秋の夕雲れ春の夕雲ハ秋の夕雲れ

玉吟 兼明親王亭 今野宮の南は西蹟ありは親王の延喜帝第十六の皇子小

兼明親王亭 今野宮の南は西蹟ありは親王の延喜帝第十六の皇子小

起の貞元二年の親王の延喜帝第十六の皇子小

中務卿の任に頼忠の親王の延喜帝第十六の皇子小

乃權明親王の村上帝の皇子中務卿具平親王と詩文の遊一終

故平親王と中書王と号あり

尾瀧 尾瀧の麓ハ後嵯峨院後又龜山院と号ふ仙居一終

兼明親王亭

兼明親王亭 今野宮の南は西蹟ありは親王の延喜帝第十六の皇子小

兼明親王亭

兼明親王亭 今野宮の南は西蹟ありは親王の延喜帝第十六の皇子小

兼明親王亭

兼明親王亭 今野宮の南は西蹟ありは親王の延喜帝第十六の皇子小

兼明親王亭

兼明親王亭 今野宮の南は西蹟ありは親王の延喜帝第十六の皇子小

兼明親王亭

兼明親王亭 今野宮の南は西蹟ありは親王の延喜帝第十六の皇子小

兼明親王亭

兼明親王亭 今野宮の南は西蹟ありは親王の延喜帝第十六の皇子小

兼明親王亭

兼明親王亭 今野宮の南は西蹟ありは親王の延喜帝第十六の皇子小

兼明親王亭

兼明親王亭 今野宮の南は西蹟ありは親王の延喜帝第十六の皇子小

兼明親王亭

兼明親王亭 今野宮の南は西蹟ありは親王の延喜帝第十六の皇子小

兼明親王亭

兼明親王亭 今野宮の南は西蹟ありは親王の延喜帝第十六の皇子小

兼明親王亭

兼明親王亭 今野宮の南は西蹟ありは親王の延喜帝第十六の皇子小

兼明親王亭

兼明親王亭 今野宮の南は西蹟ありは親王の延喜帝第十六の皇子小

兼明親王亭

兼明親王亭 今野宮の南は西蹟ありは親王の延喜帝第十六の皇子小

兼明親王亭

兼明親王亭 今野宮の南は西蹟ありは親王の延喜帝第十六の皇子小

兼明親王亭

兼明親王亭 今野宮の南は西蹟ありは親王の延喜帝第十六の皇子小

兼明親王亭

兼明親王亭 今野宮の南は西蹟ありは親王の延喜帝第十六の皇子小

兼明親王亭

兼明親王亭 今野宮の南は西蹟ありは親王の延喜帝第十六の皇子小

兼明親王亭

兼明親王亭 今野宮の南は西蹟ありは親王の延喜帝第十六の皇子小

兼明親王亭

兼明親王亭 今野宮の南は西蹟ありは親王の延喜帝第十六の皇子小

兼明親王亭

兼明親王亭 今野宮の南は西蹟ありは親王の延喜帝第十六の皇子小

兼明親王亭

兼明親王亭 今野宮の南は西蹟ありは親王の延喜帝第十六の皇子小

兼明親王亭

兼明親王亭 今野宮の南は西蹟ありは親王の延喜帝第十六の皇子小

兼明親王亭

兼明親王亭 今野宮の南は西蹟ありは親王の延喜帝第十六の皇子小

兼明親王亭

兼明親王亭 今野宮の南は西蹟ありは親王の延喜帝第十六の皇子小

兼明親王亭

兼明親王亭 今野宮の南は西蹟ありは親王の延喜帝第十六の皇子小

兼明親王亭

兼明親王亭 今野宮の南は西蹟ありは親王の延喜帝第十六の皇子小

兼明親王亭

兼明親王亭

徒然神云

徒然神云 兼明親王亭 今野宮の南は西蹟ありは親王の延喜帝第十六の皇子小

徒然神云

徒然神云 兼明親王亭 今野宮の南は西蹟ありは親王の延喜帝第十六の皇子小

徒然神云

徒然神云 兼明親王亭 今野宮の南は西蹟ありは親王の延喜帝第十六の皇子小

徒然神云

徒然神云 兼明親王亭 今野宮の南は西蹟ありは親王の延喜帝第十六の皇子小

徒然神云

徒然神云 兼明親王亭 今野宮の南は西蹟ありは親王の延喜帝第十六の皇子小

徒然神云

徒然神云 兼明親王亭 今野宮の南は西蹟ありは親王の延喜帝第十六の皇子小

徒然神云

徒然神云 兼明親王亭 今野宮の南は西蹟ありは親王の延喜帝第十六の皇子小

徒然神云

徒然神云 兼明親王亭 今野宮の南は西蹟ありは親王の延喜帝第十六の皇子小



大堰川
 漁釣躰

一口小

中

と

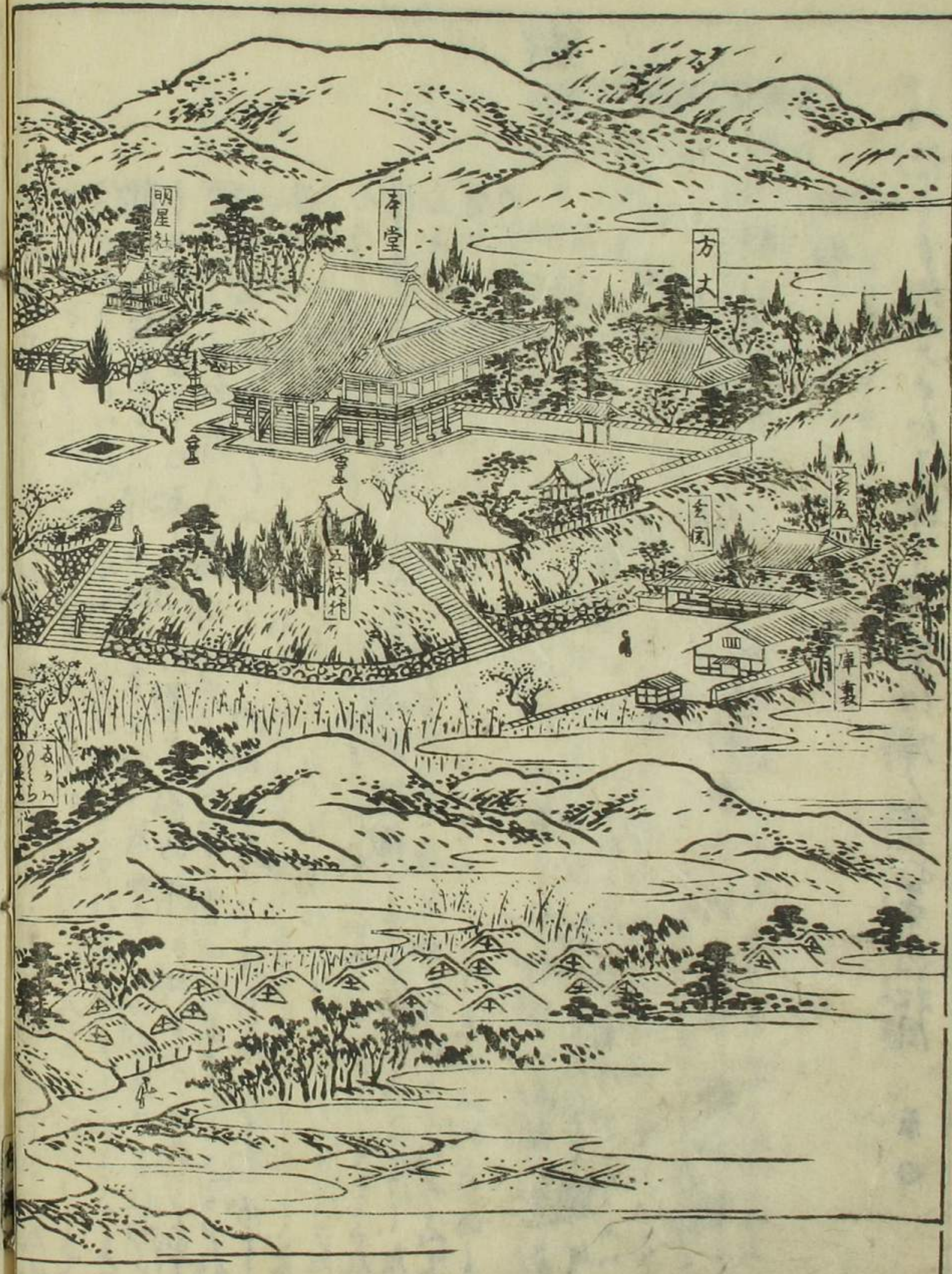
結

新

江戸

一鉄

嵯峨
法輪寺

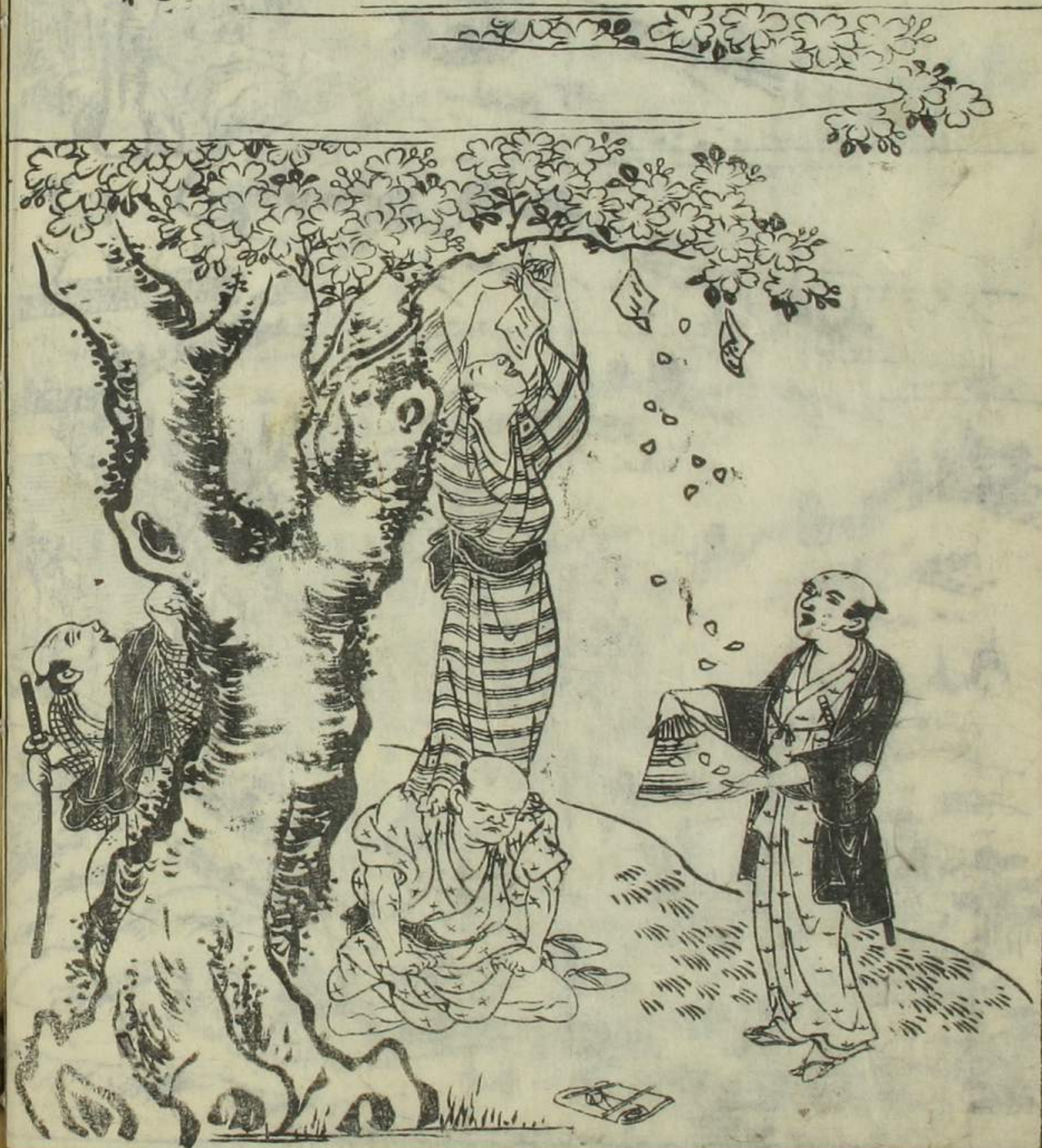


西行樓
樹樓の
南あり

新古今

あつひそ
花ふさぎ
あつひそ
あつひそ
あつひそ

西行法師



本願寺傳記曰

聖人故郷小歸りて住事と申すは又年々歳々差の如くこれ如く長安洛陽の栖と蹟は
 やまひふ嫌々て投風馮胡とてはくふ接住りてはいた五條西洞院にけりあれこの
 勝地とてと志どく居候あめり今たけりへ口受候はく面受候とげり門徒
 等あめり好と慕ひ路取訪りて希集しりひたり云

佛光寺繪詞傳曰

建曆二年九月開山 親鸞 聖人小別公階の一字を草創興正寺と号し真佛上人 聖修寺傳之
 嫡弟平國香後亂下野國司大念弟之 附法相承之

禪定殿下の花園に勝地と則てふあつて院と稱へ住せり人即花園院と號ん云

月見池 書院のなつりありあつて實公池水の月とて月見松 此の側小

獅子巖 此のふあり形は獅子乃躍躍とてなりて是古代のよ 珠數掛梅 獅子石乃優あり

張く延く花魁の法を考ふるも親鸞上人會津板付に云くけり人なりて當寺の什
 物又ハ能存推現親鸞聖人對坐の清寂ありと云ふ覺如上人安樂集乃文を引て別紙に
 嘆せとて人其介覺信尼の親真向の休院法然上人自画の親蓮如上人六字の名号を
 あり大泉の号もは地中れ清泉より出て親鸞聖人奮然一貫あり

大尊社 油小治通徒小治の南風早町あり系神の夜交虫見尊之次災除成と祈り小靈驗あり
 例祭ハ九月廿八日又側工天宮あり當町ハ祇園會天神山町あり其神係板あり又

鎮坐しり又け所の東後小治寺町小例路次ハ真小政風蓮のなあり是古代の
 辨之世俗哉板坊各慶節といふ由縁詳なり云



大泉寺



八磨御靈社

醒井通高辻の南東側人家の奥あり初ハ只許靈祠と云へり一後成御乃宅辺又ハ有ニ神と勸誘し人住吉玉津徳ハ現存し七子ゆふふ人九

一道院

堀川通五條坊門あり法華宗本國寺ニ属し開基ハ吉祥院日喜上人中興ハ

日蓮上人像

堀川通五條坊門あり法華宗本國寺ニ属し開基ハ吉祥院日喜上人中興ハ

蛭子社

四條通油小路の西高松社明の商人家の裏あり日吉山王の末社なり實ニ

本行寺

醒井通後小路の南あり法華宗妙覺寺ニ属し開基ハ日蓮上人

日蓮上人像

自統一尺八寸計古ハ房別誕生寺あり車ハ法華宗靈徳記ニ云々

相逢社

堀川通新町の西高松社明の商人家の裏あり日吉山王の末社なり實ニ

迷子

呪人聲や血を啼かすきん

兒藥師

三條通油小路西あり音徳寺といふ久代龜山帝許幼稚小海しまたとん

又旅社

三條通あり一町の角あり音徳寺といふ久代龜山帝許幼稚小海しまたとん

了以見伏見地卑於大佛殿基可六丈即壞其高為是於卑處若河曲處置轆轤引起復浮水水平如地先是呼許呼邪者五丁憂之萬牛難之於是水運不勞力不日材木悉達人皆奇之十六年了以請行舟鳴河乃聽之因自伏見河漕船遡上流達二條至今有數百艘遂構家河傍使玄之屈之玄之男玄徳嗣焉十九年富士河壅嶮舟不能行

鉤命召了以有病玄之代行治水又能通舟三月始役七月成之聞了以病急告假玄之未入洛先二日了以歿實慶長十九年秋七月十二日也時六十一歲此年夏營大悲閣于嵐山山高二十丈計壁立谷深右有瀑布前有龜山而直視洛中河水流於龜嵐之際舟舩之來去居然可見矣其疾病時謂曰須作我肖像置閣側捲巨綱為坐墊為杖而建石誌玄之等從其遺教玄之錄其事以寄余請之記件件如右昔白圭之治水以隣國為壑張湯濬鑿鉅嶮巖不能通今了以疏大井河滄鴨水決富七川凡其所排通釀開則舟能行不負其載人皆利之與白圭張湯所為大異矣所謂舟楫之利以濟不通者不在茲乎宜哉垂裕後昆余與玄之執交久矣故應其請書焉且旌之以銘其詞曰

排巨川兮舟楫通浮鴨水兮梁如虹矧復鑿金富士河兮奮成功慕其錫玄圭兮笑彼化黃熊嵐山之上兮名不朽而無窮

寬永六年冬十一月日

雲がく
人板
休
月
ふ
と



野依 野依宮の子孫
今詳し
松尾神社乃山上
松尾神社乃山上
松尾神社乃山上
松尾神社乃山上

最福寺 松尾の南松室村あり
松尾の南松室村あり
松尾の南松室村あり
松尾の南松室村あり

峯堂 峯堂の南松室村あり
峯堂の南松室村あり
峯堂の南松室村あり
峯堂の南松室村あり

真如寺 真如寺の南松室村あり
真如寺の南松室村あり
真如寺の南松室村あり
真如寺の南松室村あり

神代三陵 延喜式日向埃山陵天津彦火瓊瓊杵尊 日向高屋山上

陵彦火火出見尊日向吾平山上陵彦波瀲武鸕鷀野田邑陵南原祭之其北域東

己上神代三陵於山城國葛野郡田邑陵南原祭之其北域東

西一町南北一町云云 此三つの陵今詳す 彦火瓊瓊杵尊の陵は南二町

又件乃 梅山長福寺 二十餘間 後傍の南面は小祠あり

大梅山長福寺 東梅津 禪宗 寺て佛殿乃本尊ハ釋迦佛脇士ハ

普賢文殊表門の類ハ長福寺と書きて世尊寺忠季娘の筆佛殿

の額ハ祈禱とありそ筆者詳す 次開基ハ月林大幢國師大元國師

入て法孤茂古林小嗣ハの國ハ乃て佛惠智鑑大師と號と是則大元

乃文宗帝の勅號とス普光大幢國師と號と是則大元

後村上院の勅號とス花園院と清歸依あり即ハ帝ハ清塔所と

別傳院とス寶輪と號と辰影の畫圖當寺ハあり上の清瀧ハ清辰翰之

予之陋質法印豪信 干時曆應改元無射之候也 清瀧の如し辰影ハ故爲信卿息圖とす所也

開山塔圓明と号ハ同所 清凉院ハあり

柞當寺の初ハ天台宗ありて真理と云ハ女僧ハ建之とそハより年久

く去ては里ハ梅津左衛門清景と云ハ者ありそ月林和尚と尊信

と其時清景當寺板領ト忽和尚ハ附與して禪刹と云とあり

梅津左衛門塔 長福寺の門外ハあり

山之内 乃西千本より西六町ハありハ所ハ内裏ハ時長安

号ハ今村の名ハ次則草堂ハ傳教大師の畫ハあり又里ハ西端ハ

山王祠 あり今山之内ハ南ハ西ハ陽西六條興正寺ハあり

德成寺 山之内ハ街道乃西ハ南ハ西ハ陽西六條興正寺ハあり

西院 乃西千本より西六町ハありハ所ハ内裏ハ時長安

嵯峨天皇乃長仁天皇ハ同腹ハありハ所ハ内裏ハ時長安

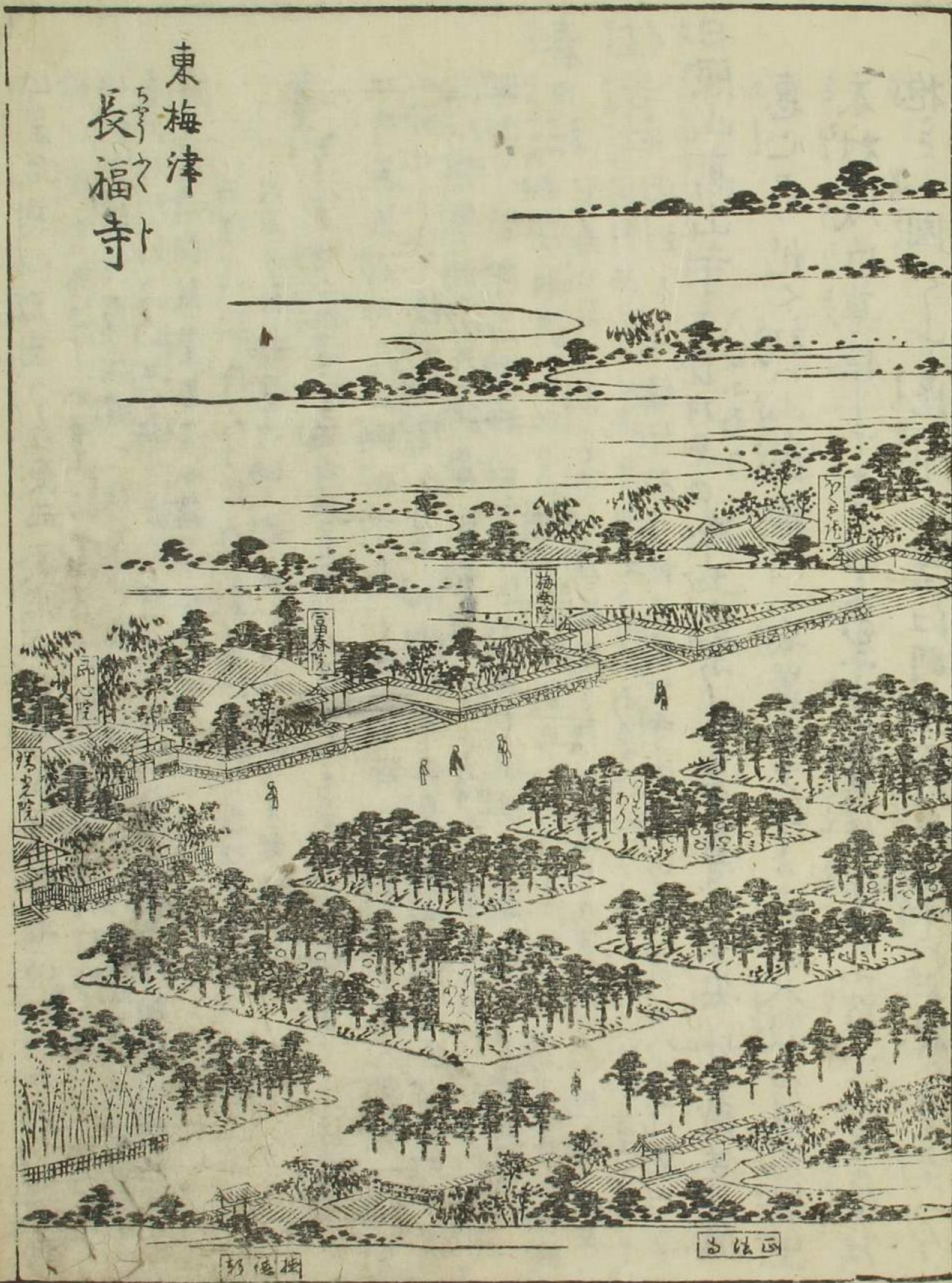
あり承和七年五月淳和帝崩トありハ所ハ内裏ハ時長安

歷ハ同九年 嵯峨右上天皇崩トありハ所ハ内裏ハ時長安

梨ハ先財室ハ施して大齊會ハ設ク又延曆寺ハ座主圓仁ハ

梨として菩薩戒ハ授クハ法名ハ長祚ト稱ト之慶三年三月廿二日覺

東梅津
長福寺



は皇后慈仁に到り東西兩京の藥兒孤疾を拾ひ救められんが母は
給ひ奉り育らるるに於て又差巽乃故宮と精舎とを覺寺とにつく
は側小濟治院を建て僧尼の病者を療治し厚和院とて道場を
するに塔五十五又曰天長十年二月廿八日酉天皇淳和院を遷す
して清位天皇太子の講堂とす同卷

西院乃后清くおろさせしめておこさるを
々々といはれ後院の中へ松をけりてをせり
後集
松をけりてをせりてをせり

は所其後源氏乃公卿の字室は故源氏の長者なる人當院は別當
補正の所後小松院清宇永徳三年の春鹿園院義満公を大松
源和兼學兩院乃別當に兼帯し之を承りては別當の所を
源氏乃公卿大納言の所は任兼帯せしめり

春日社 西院村乃小の松の所は任兼帯せしめり
官春日社と樹と土人産神とは神祇官の故小神祇
住吉社 同村西の南半町にありては神祇官の故小神祇
當社と樹と土人産神とは神祇官の故小神祇

日照山高山寺 西院村東の澤土宗して本尊は子安地藏菩薩
入口あり

惠心乃化之初山嶽横川に安置し多し入寂の後志賀里
本村成近尊信してこれを家安並具後逆乱に罹てはる傍に
抱き小國さして落行りて系江別堅田に傍田中れ平林の棄金る

夫よりは昨夜毎光明赫々として白日に如く村人これを奇りて
乃の見るる地蔵尊と傳へり即小堂を建て田中の地蔵尊と傳へり
文永年中堅田住人名村小左重後夫婦子のるに奉承ては尊像を
祈誓しこれを忽に身成月満て男子と産り是より子安のる傍と
号に又曆應の足利尊氏將軍清輝依ありて洛の西今れ地又遷佛
仰附られ洛陽六躰地藏巡り乃其一尊とあり

第四川崎清和院第五祇陀林寺 又其後東山殿 義政と清信仰ありて
第六鳥邊野寶積寺は六ヶ所と

小乃方清平産れ駿のりを累年いかに安んじて無應はとく隆
冠石 當寺本堂乃法守乃傍あり 棟松 本堂の後上あり樹葉壯
高サ六尺餘冠の形とあり 棟松 本堂の後上あり樹葉壯
又樹葉ありて規範とあり

秀傳庵 同村春日社乃聖あり禪宗して妙心寺大光院乃隱居所なり
宗圓寺 同村街道の南一町あり本尊聖觀音して禪宗黃檗派の
宗圓寺 同村街道の南一町あり本尊聖觀音して禪宗黃檗派の

宗圓寺 同村街道の南一町あり本尊聖觀音して禪宗黃檗派の
宗圓寺 同村街道の南一町あり本尊聖觀音して禪宗黃檗派の

宗圓寺 同村街道の南一町あり本尊聖觀音して禪宗黃檗派の
宗圓寺 同村街道の南一町あり本尊聖觀音して禪宗黃檗派の

宗圓寺 同村街道の南一町あり本尊聖觀音して禪宗黃檗派の
宗圓寺 同村街道の南一町あり本尊聖觀音して禪宗黃檗派の

宗圓寺 同村街道の南一町あり本尊聖觀音して禪宗黃檗派の
宗圓寺 同村街道の南一町あり本尊聖觀音して禪宗黃檗派の

寶藏院 同村宗圓寺の南に隣りて浄土宗釈尊阿彌陀如来之則當村の

より傳來りて尊佛あり阿彌陀佛坐像五尺許勝土ハ觀音勢至

野宮 西院村五町をくろ生遷乃西林の中ふありけ所ハ崖我ハ洞一ノ齊

宮乃居所なりて際齊の地なり今西院春日明神所流所なり

清泉 野宮より南一町をくろあり小池ありて方四圍をくろ池の中ハ祠あり

天文星 西七條の南梅小路土門家 晴明社 神所ありて神木ありて

御所内 西七條の南七町をくろあり小池ありて池の北ハ高貴乃別荘あり

勝定院 御所内の中ハあり本尊阿彌陀佛坐像二尺五寸長日こせ之

越前幸林房塚 同所龍二町をくろあり

福源院 川勝寺村ありけさひへ大架ありて勝寺ハ舊法あり今里乃

堂の内とぶづる地乃ありて一寺ありて變せ候

津寺 行基乃化あり同基詳あり

二宮 神樂の津旅所なり

桂里 神樂の西ハあり上樹中樹下樹とニ村ハ分候

古今 久のこれ中ハありて室ありて光坂のそをわへらる

後重 久の面ハ花れ白しとくそてちとを乃杖の例とそる

新古 久のこの中なる川れくひみいふ契とやと伝きつん

續撰 久のこの中なる川れくひみいふ契とやと伝きつん

手奥ハは河の名産なりてかへま日毎ハ天子へ上りてかへま

六帖 胡あく日次傳つる桂結あゆむ故とて方乃ハ可なり

藤原兼房山莊 山莊ありて

藤原兼房

稚子内親王

致忠

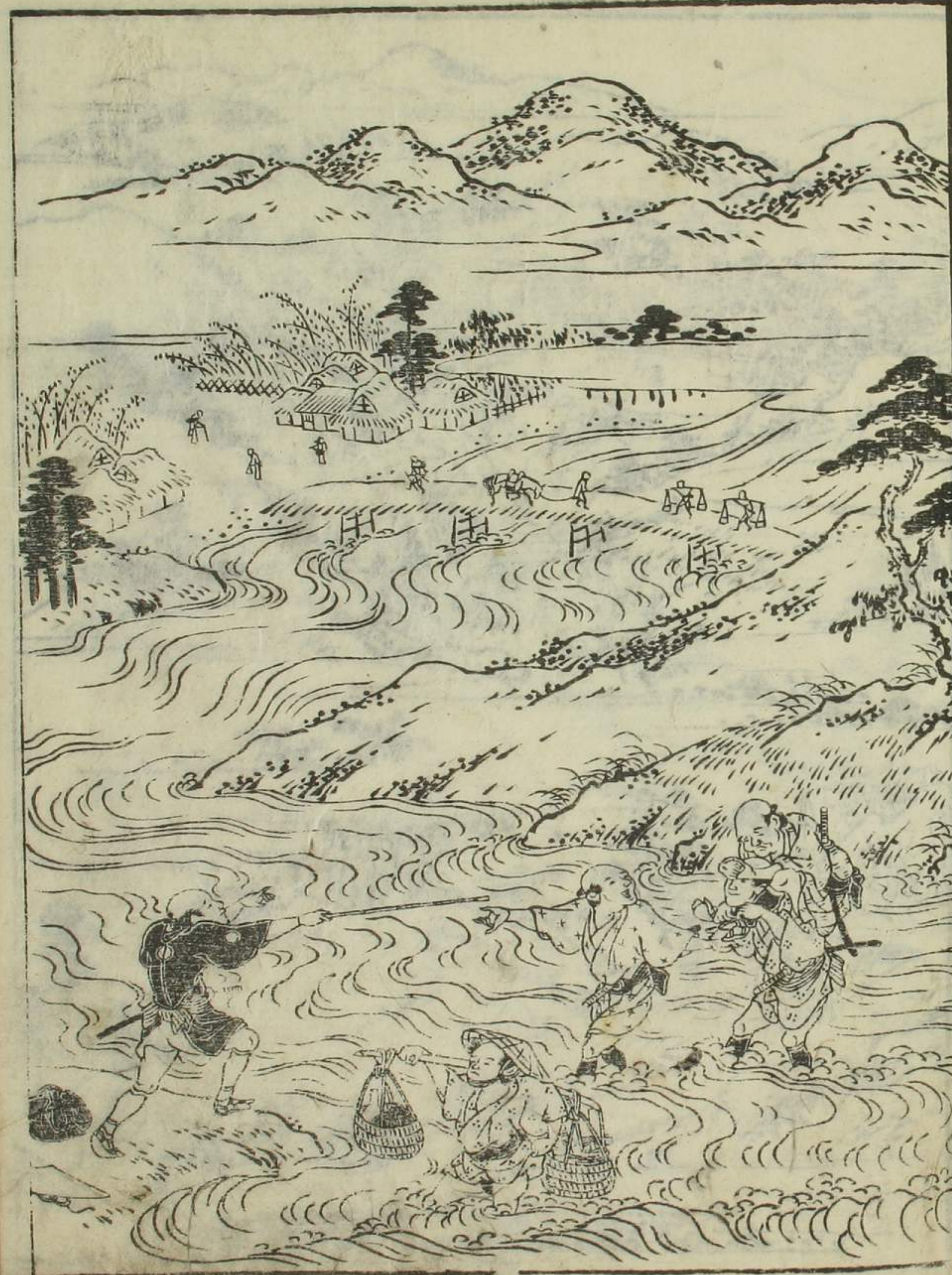
能宣

定家

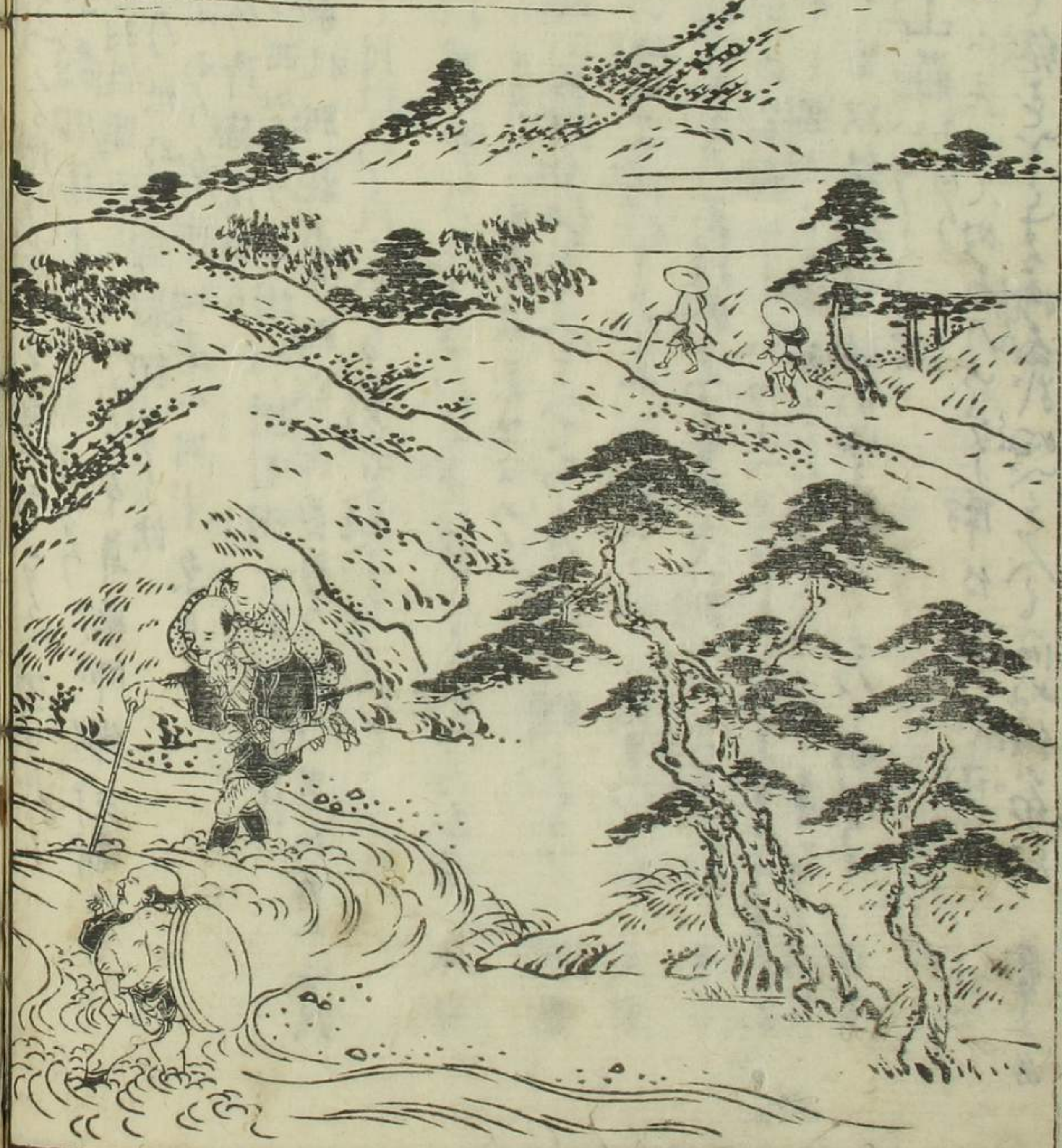
實方

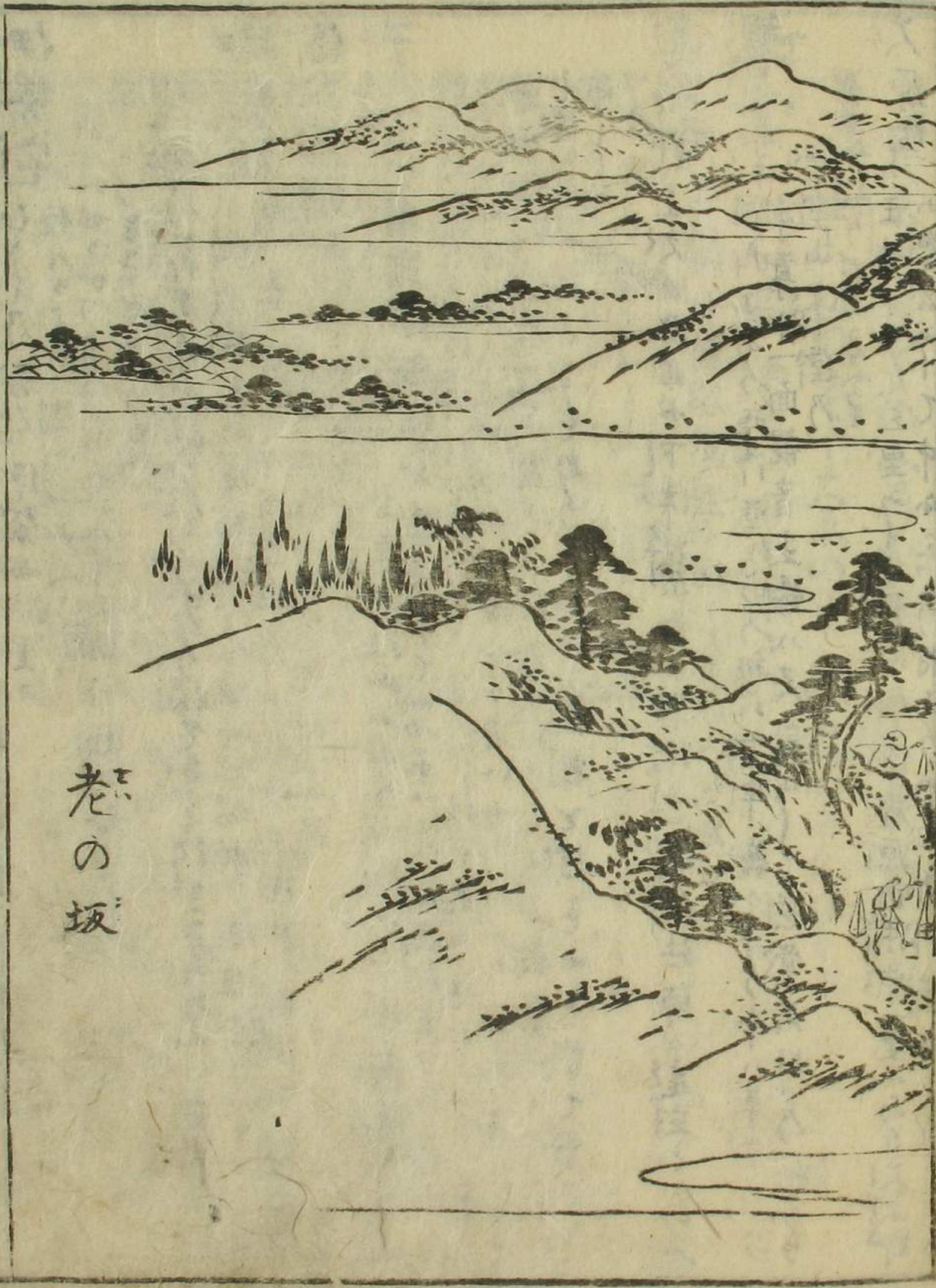
信實

伊勢



案内ふくして
 霧族の迫る坂
 行へ好むるも
 雪解の旦夕之
 乃後細谷川の
 水もも水増り
 て流る足と
 味全傍大井川
 へ石荒くして
 歩く見ゆる所も
 足板入とを
 銀もて開く
 来多しとぞ
 を憂るは時
 近憂あらん
 の誠る人





伊勢宅

住々より法之ふふより
いせのつきののふふりて梅乃枝の心と

御霊社

上樹下樹小同神
真一基ありある土人生土神と

保古羅明神社

久世乃苗あり神不詳
土人生土神と

子敦盛舊跡

下久世乃苗あり
敦盛の室整居して男子一人誕生於其より

運生寺

上久世乃西小下津林あり
宇津宮運生法師の遺跡と

觀音堂

所小あり西津堂と
觀音立像ハ又計りて善覺入師乃住り

大原野

王城あり凡三里あり
丹波街道原の末申一里あり大原野

後撰

善惠上人塔

西山三鉢寺の山下三町より
善惠上人の遺跡と

小松屋

大原小松屋の心乃小松系
本意を以て

淨觀

廣大智惠觀悲觀及慈觀
常觀常觀常觀常觀

淨觀

廣大智惠觀悲觀及慈觀
常觀常觀常觀常觀

淨觀

廣大智惠觀悲觀及慈觀
常觀常觀常觀常觀

淨觀

廣大智惠觀悲觀及慈觀
常觀常觀常觀常觀

淨觀

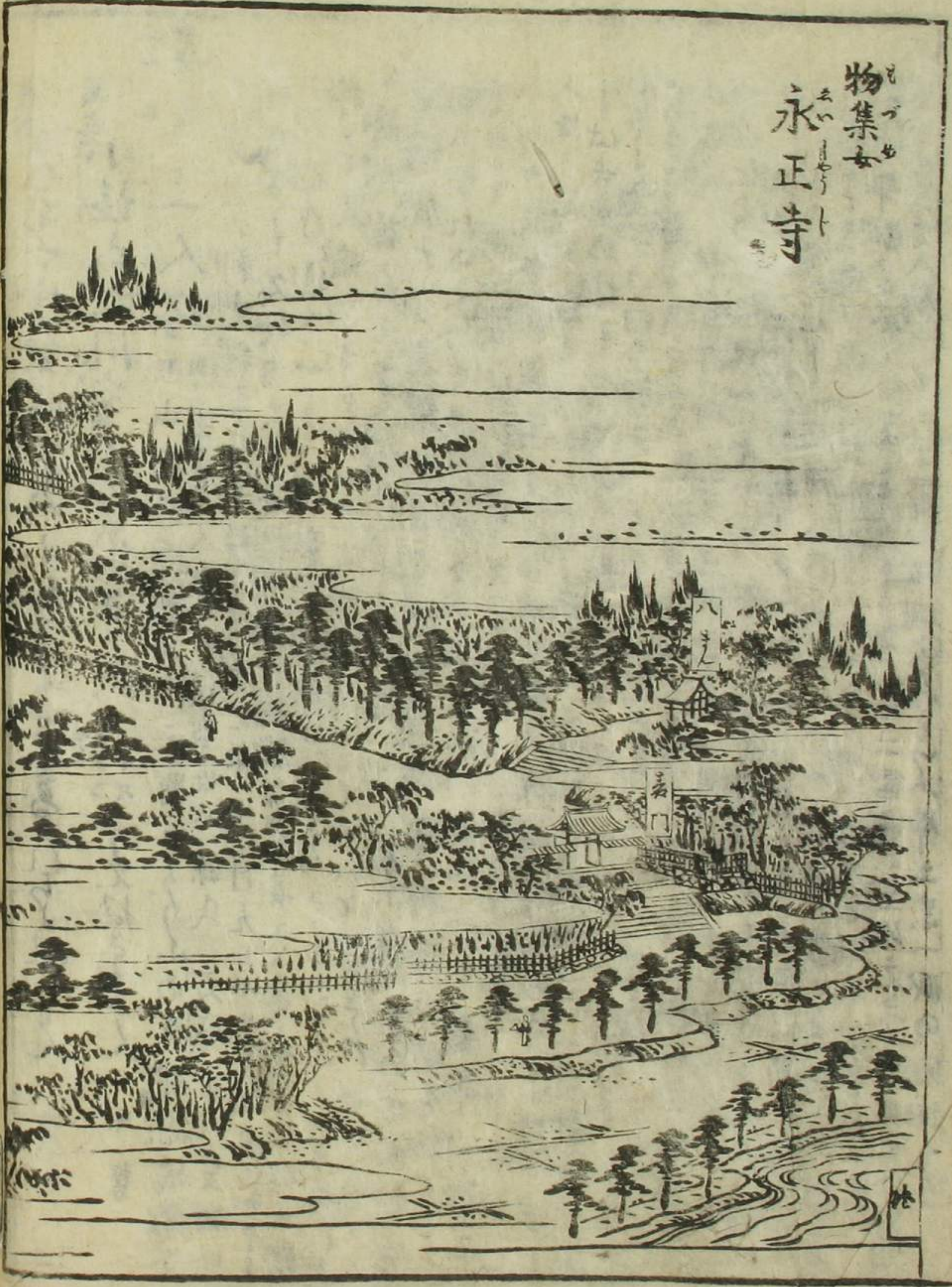
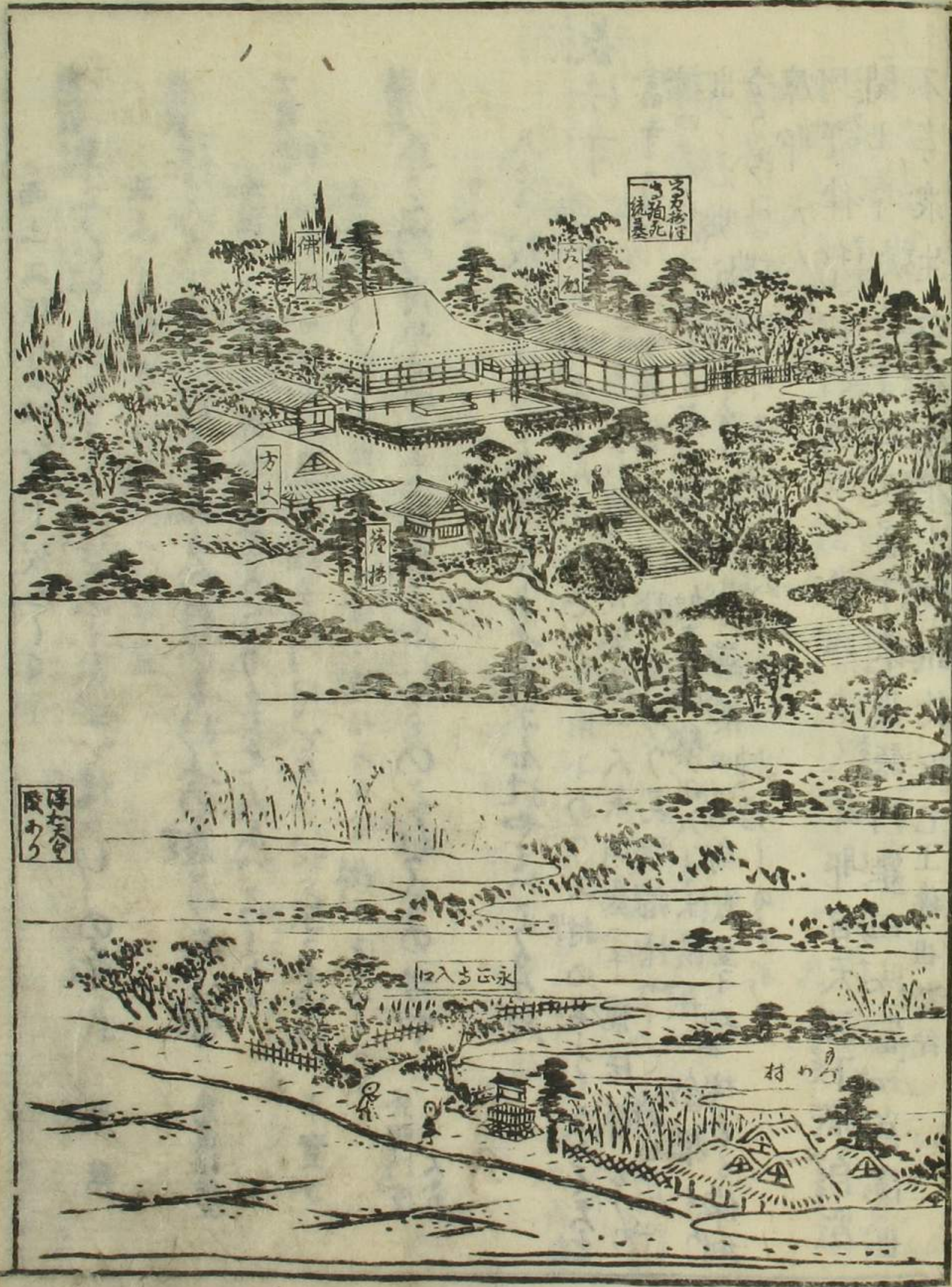
廣大智惠觀悲觀及慈觀
常觀常觀常觀常觀

淨觀

廣大智惠觀悲觀及慈觀
常觀常觀常觀常觀

淨觀

廣大智惠觀悲觀及慈觀
常觀常觀常觀常觀



物集女
永正寺

西ふみ位なるはむし一たきて

草ふたやとのありしと法たふたせと後りりのあ式 慈鑑

西ふみ位なるはむし一たきて 西ふみ位なるはむし一たきて

千載 西ふみ位なるはむし一たきて 西ふみ位なるはむし一たきて

西ふみ位なるはむし一たきて 西ふみ位なるはむし一たきて

入るはたせ乃不たさるて月ふれやといるる

長法寺

粟生光明寺より之町をくり南ふあり又村の名ももるんて法
當寺乃竹室小唐筆乃世音坐像一人余因基千觀法師なり
横四又又六寸圖を所釋迦如未涅槃入るは後再金指たり
出て老眼照し人板菩薩羅漢四衆鳥獸等拜する体相
摩耶夫人經曰佛母夫人の為小出現し人形

阿那律升切利天以告摩耶夫人摩耶自天而下指自為
不孝尊起合掌曰遠屈下來復語阿難曰汝當知為後世
開世尊起合掌曰遠屈下來復語阿難曰汝當知為後世
不孝尊起合掌曰遠屈下來復語阿難曰汝當知為後世

立願山揚谷寺

天賜上人將軍池田龍興公の立像之當寺ハ白河院宇
水觀上人は地又剛樓しすいハ本尊板威徳し終人
楊柳水 得て池へた忽平金の靈験あり

獨鈷水 日所小夫婦石 前二町をり路のうたの

浄土山兼願寺

同所民家乃中ふあり今總堂なるは本尊ハ阿弥陀佛
浄土山兼願寺 浄土山兼願寺 浄土山兼願寺

鎮守社 堂乃生垣あり伊勢賀茂都の他 幡 經 荷

石鑄大日如来像 岩所ふ安ん

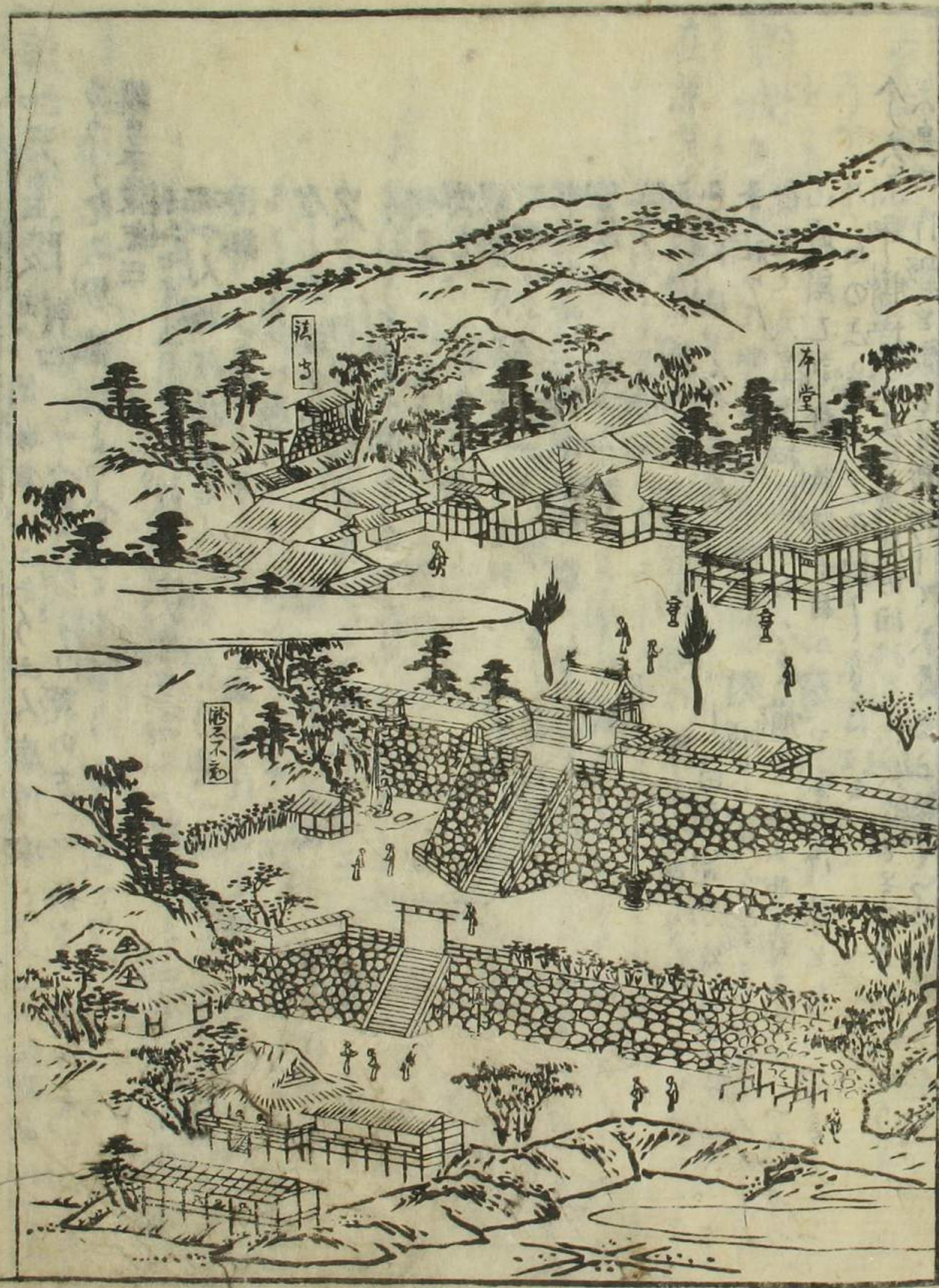
安養谷 日所東 丹屋谷 義詳なり

行道石 日所道持念しと何なり

院墓 日所乃ふ上ふあり竹といひ

佛谷 奥海印寺村の西乃谷といふ谷口小佛舎あり岩を敷ふつを
は所の東西小寺院の字あり 勝樂寺 多門寺 住生院 等あり

楊谷
之願山
楊谷寺



淳和天皇陵

西乃岡物集々あり土人廟所塚と云ふ上小松殿あり又

ありしを又燈熾前と云ふあり車塚ありありの宮と云ふ

續日本後紀曰

淳和七年五月辛巳後上天皇皇太子顧命して曰予素花筵と云ふ

況や人物を憂れせんや欽葬乃具一物を賜ふと云ふ朝野の臣長

固辭して還しなれん葬し畢らば織を釋て國に歸せんと云ふ

をりし追福の奉りし観音と云ふ人奉りて送るの衣衣陸並也

と云ふ御司の奉りし観音と云ふ人奉りて送るの衣衣陸並也

と云ふ御司の奉りし観音と云ふ人奉りて送るの衣衣陸並也

と云ふ御司の奉りし観音と云ふ人奉りて送るの衣衣陸並也

と云ふ御司の奉りし観音と云ふ人奉りて送るの衣衣陸並也

と云ふ御司の奉りし観音と云ふ人奉りて送るの衣衣陸並也

と云ふ御司の奉りし観音と云ふ人奉りて送るの衣衣陸並也

今大系野勝持寺との西成の間に奉りて遷す

長岡舊都

獨武天皇平城より遷す都也其跡大原野に在り

乃がより代實録曰大原野長岡村と記し又遷都の奉りて遷す

皇城舊蹟

大原野春日社一鳥居外辰久二町をり其跡大原野に在り

在原業平跡

長岡上羽村より氏家乃地地也の仲小業平の跡と云ふ

伊勢物語五十八段曰

昔心ほそとを去のこも男長岡といふ所なり

昔心ほそとを去のこも男長岡といふ所なり

昔心ほそとを去のこも男長岡といふ所なり

昔心ほそとを去のこも男長岡といふ所なり

昔心ほそとを去のこも男長岡といふ所なり

昔心ほそとを去のこも男長岡といふ所なり

昔心ほそとを去のこも男長岡といふ所なり

昔心ほそとを去のこも男長岡といふ所なり

廣谷

法然上人宗門私通の爲廣谷と出て西山廣谷に廟あり

法然上人宗門私通の爲廣谷と出て西山廣谷に廟あり

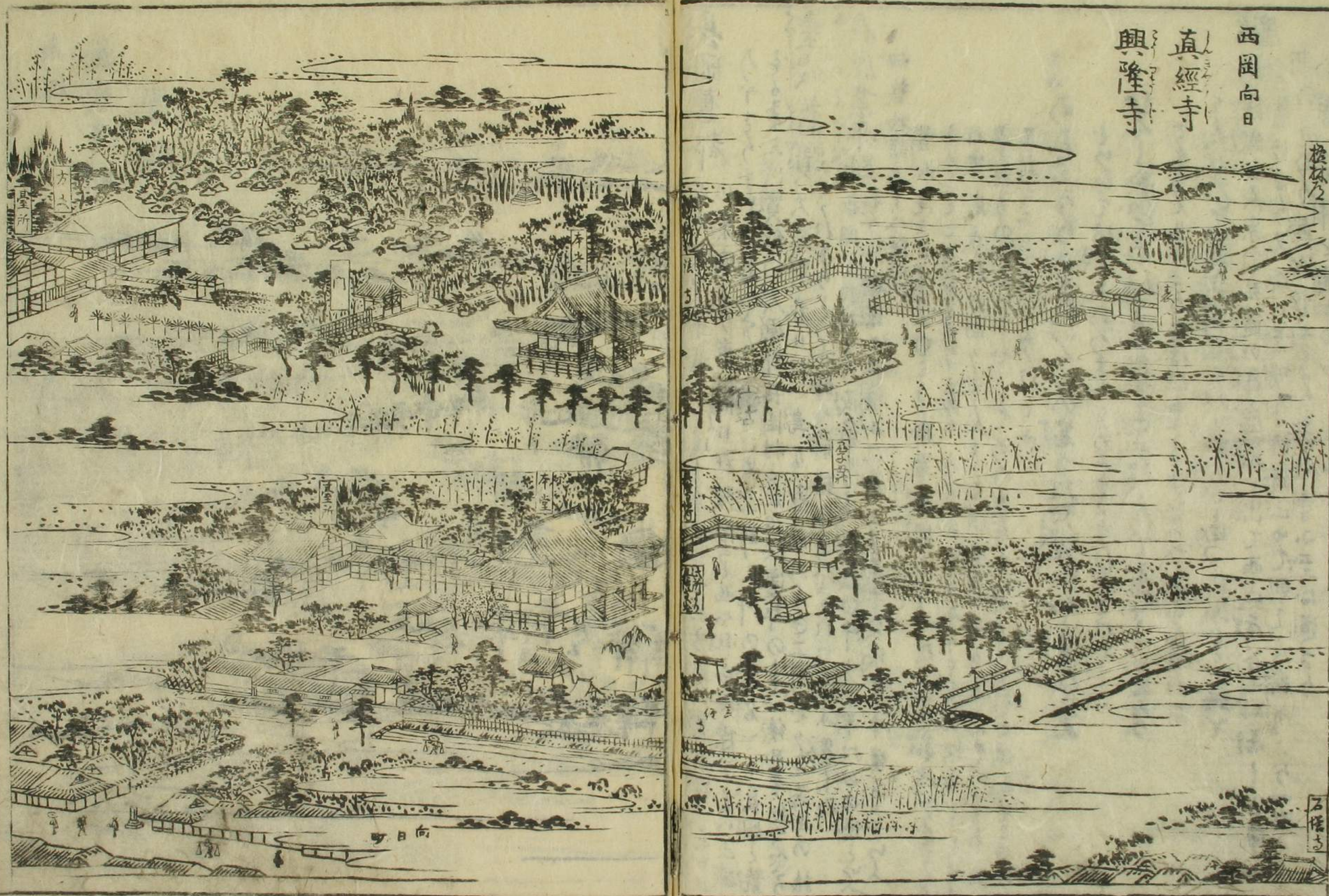
法然上人宗門私通の爲廣谷と出て西山廣谷に廟あり

法然上人宗門私通の爲廣谷と出て西山廣谷に廟あり

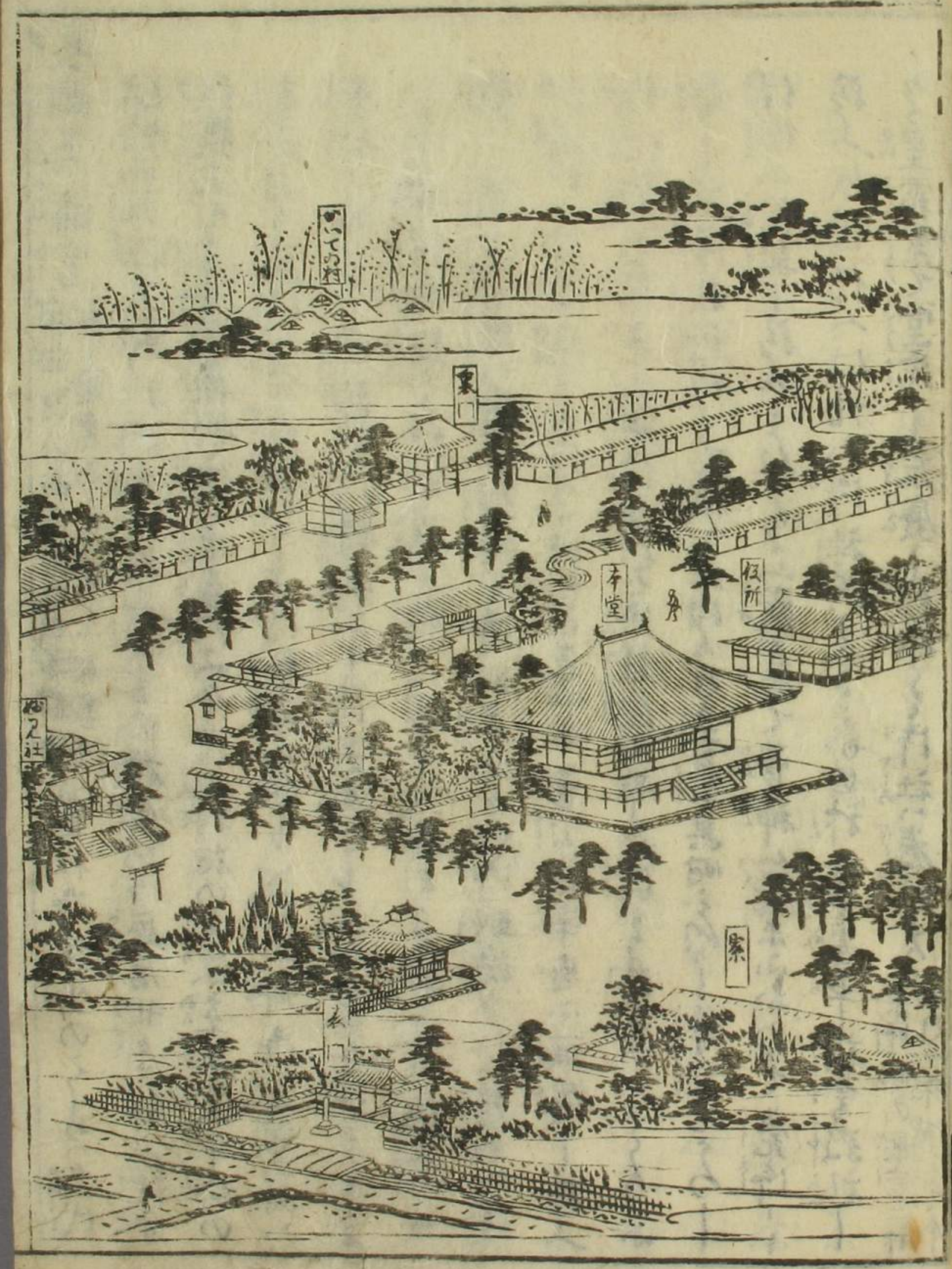
西園向日
真經寺
興隆寺

松林乃

石橋寺



西園
鶏冠井村
檀林



長岡天満宮 岡田村の西小あり由縁 當社清鎮坐のうらむ久代

け地小弘法大師れ岡基し移入真言の精舎らる殿后世々大師れ住職之て本尊の薬師佛と安堂今乃上羽村の多ふ在原業平卿の亭宅あり其頃の管並相いまも清幼年のほしく業平卿清在館の四の管公もゆりく伴法いてけ降判ふも清之運ましくわも管弦をまもしと之業平卿段し移ひて後も時々け寺小入興ありて雪月の風を感し勝景と致ひ移入住僧も清幼年の清馴染るれ懇志と運び儀の清響應中されり時小昌泰四年管公を宰府小謫遷し移入住僧警も累年の郷信るれ清餘は移み定らる移居のくりりふ趨く別後教行ありて社を老ぼりらる管公具阿のく尊容をうりし住僧小授與し移入それより之歳と歴て管神祝紫小かわて荒清し移入移入移入聴傳人け地小清社といらるかの神像と安堂一胡考致れし多星霜累て堂宇も荒廢しゆれも清社の表はらる 茶師佛の影土二社の内一棟

神樂殿乃傍 神扉秘封ありて遷宮の耐し清鎮主京極殿より神宮去 田家清頼ありて執行ひ移入 今も神威いら老ぼりて詣人つひ小絶間あく書画乃奉納舞曲をまひるの奉樂ありて社頭乃賑ひ殊さう近きや境地の風景補色ありて表のめりや移る日け小松乃緑まきく梅も書一は小白ひほく移の垣根小神燈乃かくけ輝と桜花の朧々くらりたるいさささあつらるの如け花小押くは地の面れつらる葎あやめ草田芥楓小早乙女の空白く蝉の聲の梢涼しなもつまる夕暮杖の空々人晴きて月の陰清く虫の音もくもまげく地頭乃楓樹の時と得て紅葉し蜀錦の風小飄るく移の如る君は花や小出立て青海波と舞移りたるもい合るれあり初雪れありふは清神小詣してわがをなるうらむりより云傳人移る都てけ地小岡捧りて風色の真妙移小勝るるまねるん管神風流致好之移入神意も小現とむり一移今小かへとあはべり

仁和山三尊寺 阿彌陀佛立像二尺二寸

鎮守祠 佛殿乃傍小あり勸請所雨寶童子と安ん又後因小引法

三尊寺と号す乃本堂乃二尊小は一尊依合いとは由縁なり

又山號の名義詳なり

入定塔 持のうしり小塚あり傳記をいし

神足社 洞田乃南小あり系神未考額神足社纏は神社延喜式小載し又

勝龍寺 神足の南隣ふあり又村の名も勝龍寺といは寺真言宗なり

正氣山成就院 彌陀佛の南十町あり宿院村小あり

毘沙門天甚慶の化之不動尊弘法大師の

化より同基の教圓法師あり

白山社 同所あり勸請所と

成恩寺 山崎小あり神宮寺 上は同所あり律宗あり

袖摺松 山崎妙喜庵小あり千利休茶亭四疊半の圍あり利休時外は所

神降山 荒しゆいて八幡宮清浄教向の所あり

都名所圖會拾遺卷之三終

